

5 町内会・自治会について

5－1 町内会・自治会への加入状況

◎ 「加入している」は74.2%

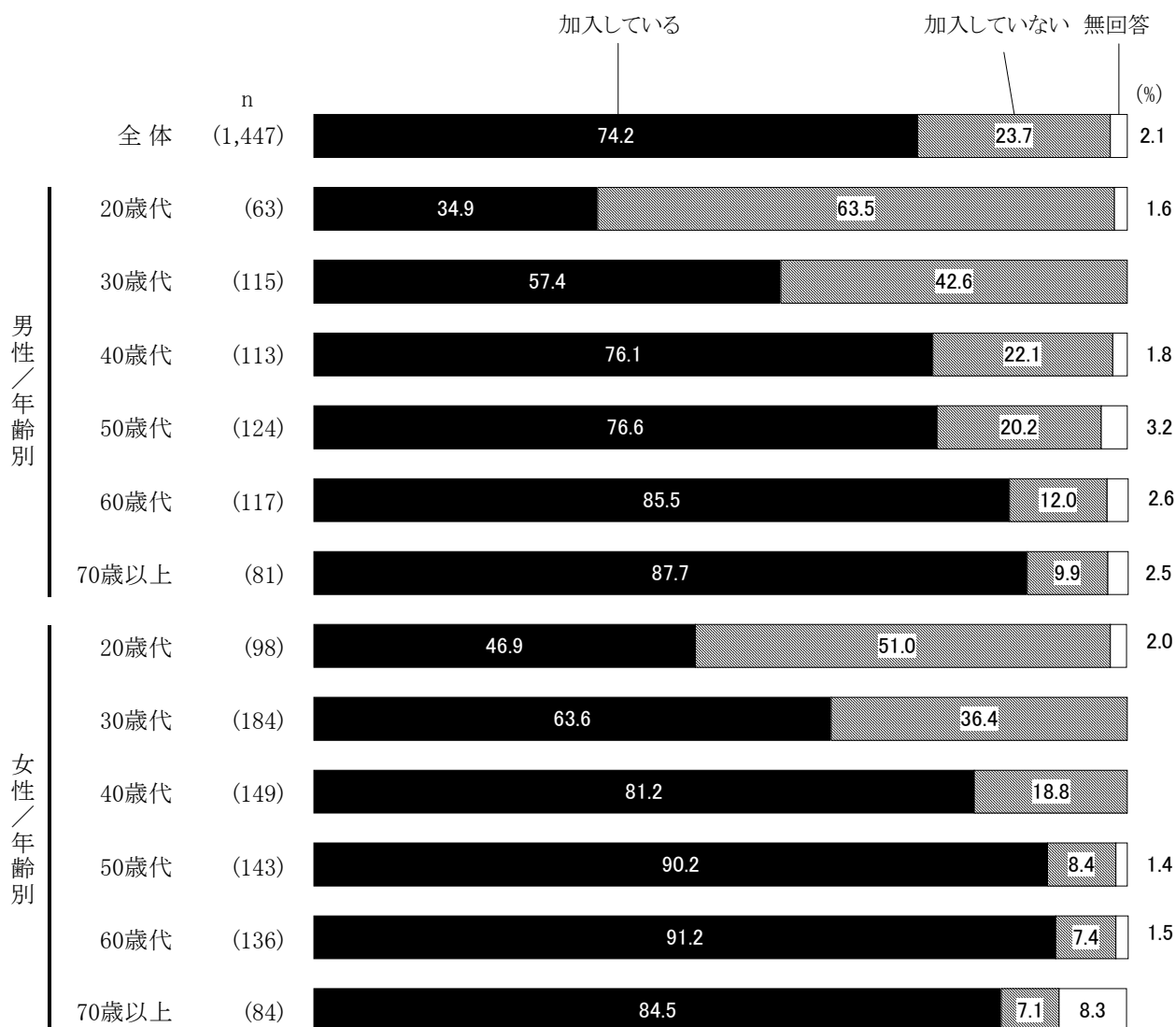
問 24 町内会・自治会に加入していますか。(○は1つ)

図表 5－1 町内会・自治会への加入状況



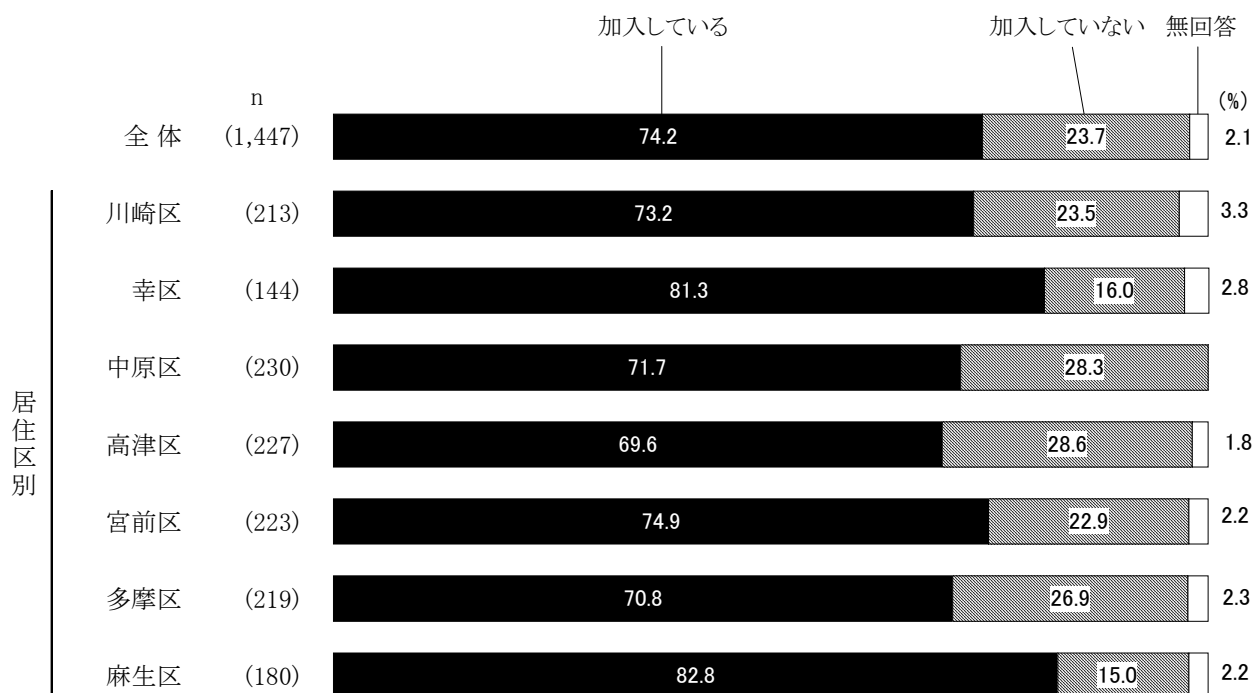
町内会・自治会に「加入している」人は 74.2%、「加入していない」人は 23.7%となっており、およそ 4 人中 3 人が加入している。(図表 5－1)

図表 5－2 町内会・自治会への加入状況 (性／年齢別)



性／年齢別では、「加入している」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、男女ともに40歳代以上が7割台半ば～9割台前半と多くなっている。一方、「加入していない」は、男女ともに20歳代～30歳代が多くなっており、特に男性の20歳代が6割台前半、女性の20歳代が約5割となっている。(図表5－2)

図表 5－3 町内会・自治会への加入状況 (居住区別)



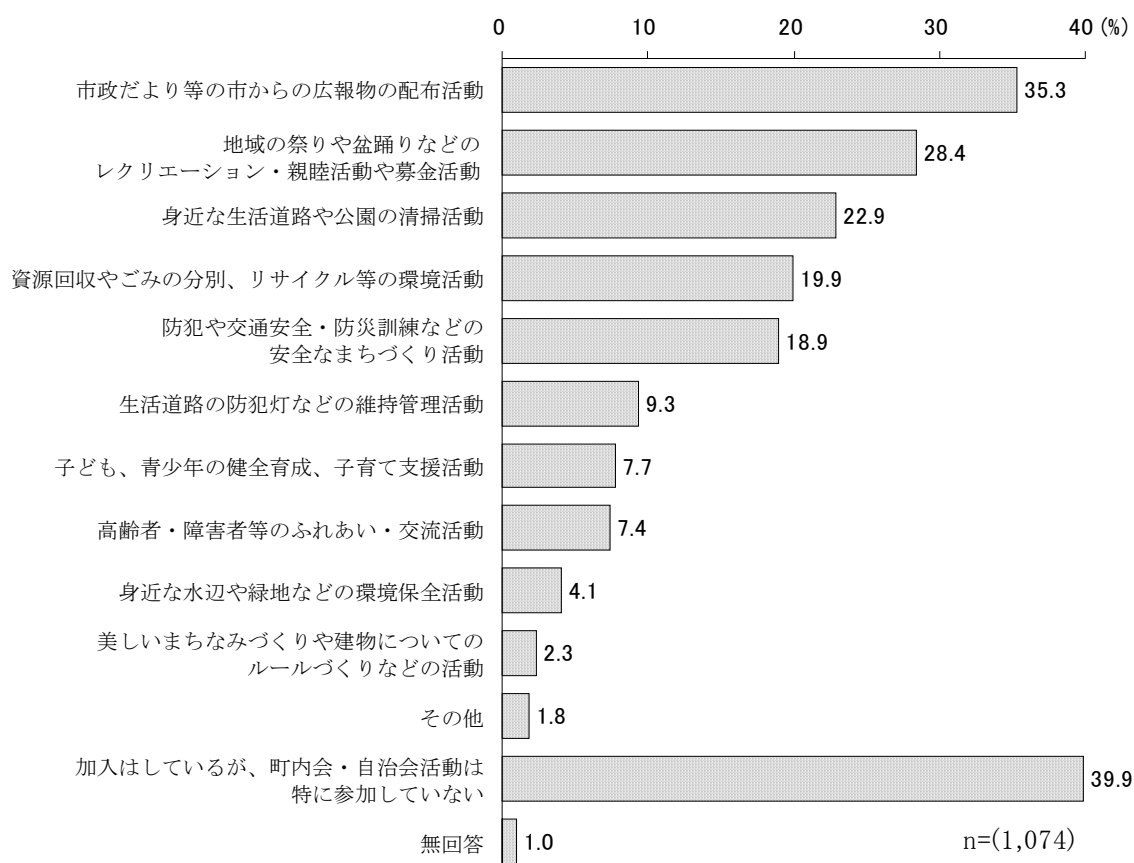
居住区別では、「加入している」は、幸区、麻生区が8割台前半で多くなっており、川崎区、中原区、高津区、多摩区では市全体を下回っている。(図表 5－3)

5-2 町内会・自治会の中で参加している活動

◎ 「市政だより等の市からの広報物の配布活動」が35.3%

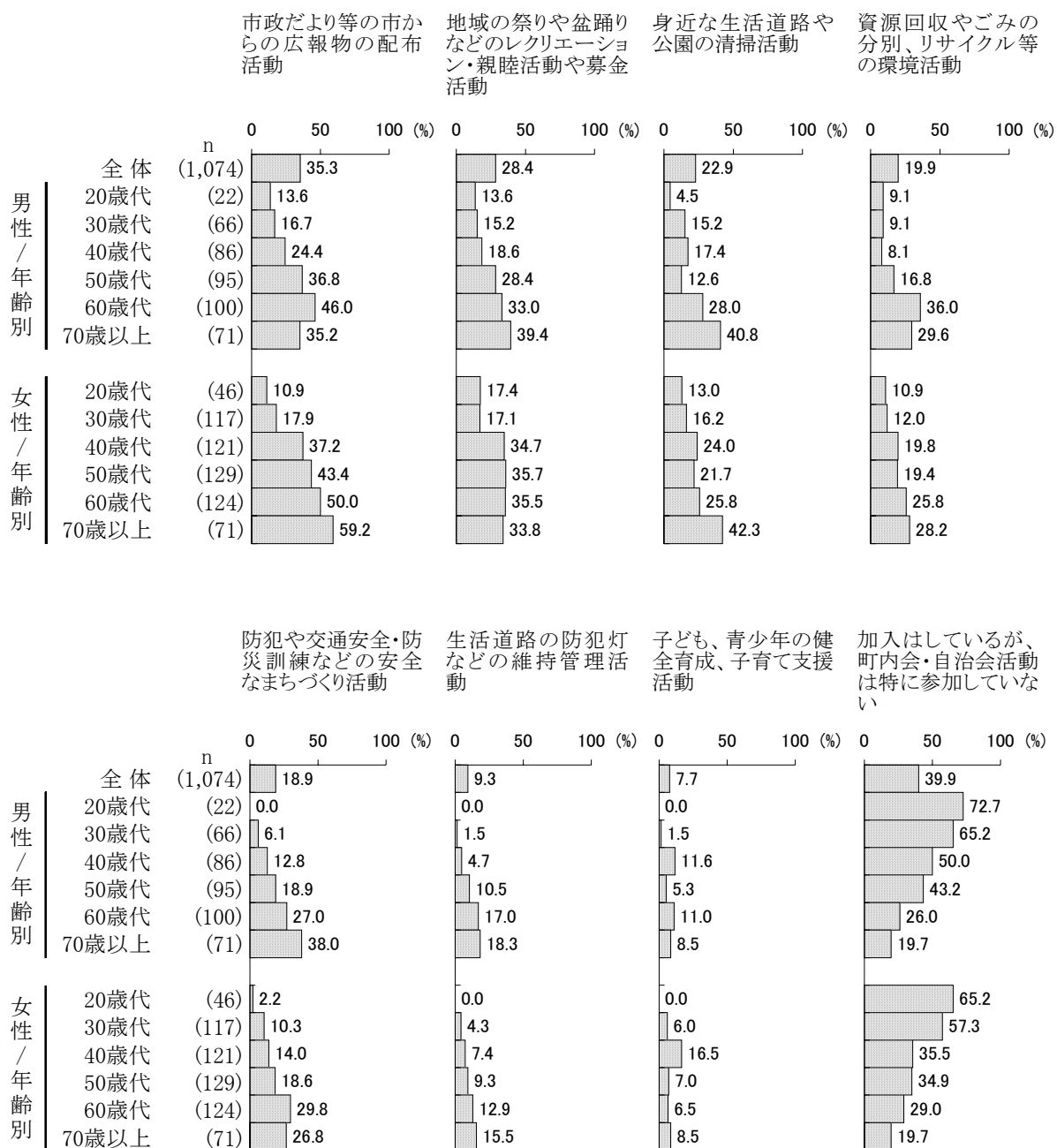
(問24で、町内会・自治会に「1. 加入している」と答えた方にうかがいます。)
問24-1 次の町内会・自治会の活動の中で、スタッフ(班長や当番制の役割なども含む。)として参加している活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表5-4 町内会・自治会の中で参加している活動



町内会・自治会の中で参加している活動は、「市政だより等の市からの広報物の配布活動」が35.3%で最も多くなっている。以下「地域の祭りや盆踊りなどのレクリエーション・親睦活動や募金活動」(28.4%)、「身近な生活道路や公園の清掃活動」(22.9%)、「資源回収やごみの分別、リサイクル等の環境活動」(19.9%)、「防犯や交通安全・防災訓練などの安全なまちづくり活動」(18.9%)と続いている。一方、「加入はしているが、町内会・自治会活動は特に参加していない」は39.9%となっている。(図表5-4)

図表 5-5 町内会・自治会の中で参加している活動 (性／年齢別、上位8項目)



性／年齢別では、全体的に年代が高くなるにつれて参加する割合が多くなる傾向がある。「市政だより等の市からの広報物の配布活動」は、男性の60歳代、女性の60歳代以上が4割台半ば～約6割と多くなっており、男女ともに20歳代～30歳代と比較すると3割～4割の差となっている。「身近な生活道路や公園の清掃活動」は、男女ともに70歳以上が4割を超え、他の年齢層と比べて多くなっている。(図表5-5)

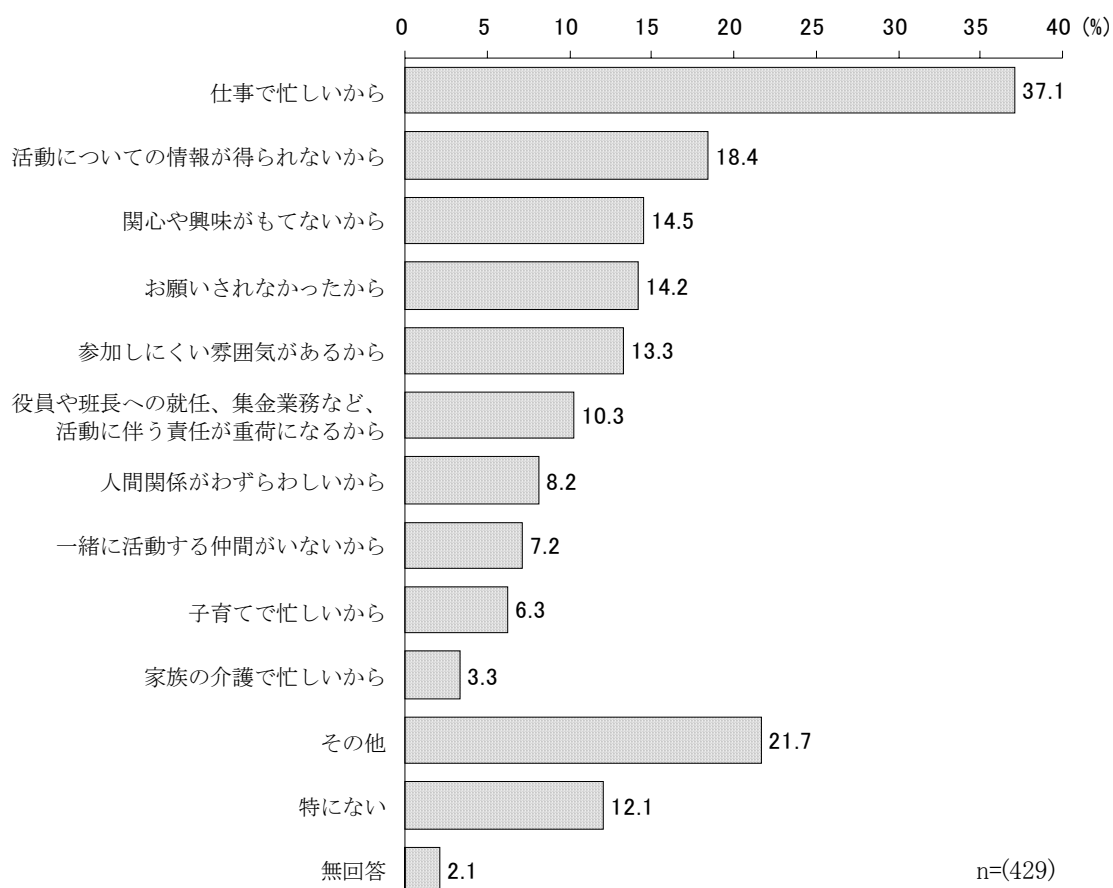
5-3 町内会・自治会活動に参加していない主な理由

◎ 「仕事で忙しいから」が37.1%で最も多い

(問 24-1 で、町内会・自治会に「12. 加入はしているが、町内会・自治会活動は特に参加していない」と答えた方にうかがいます。)

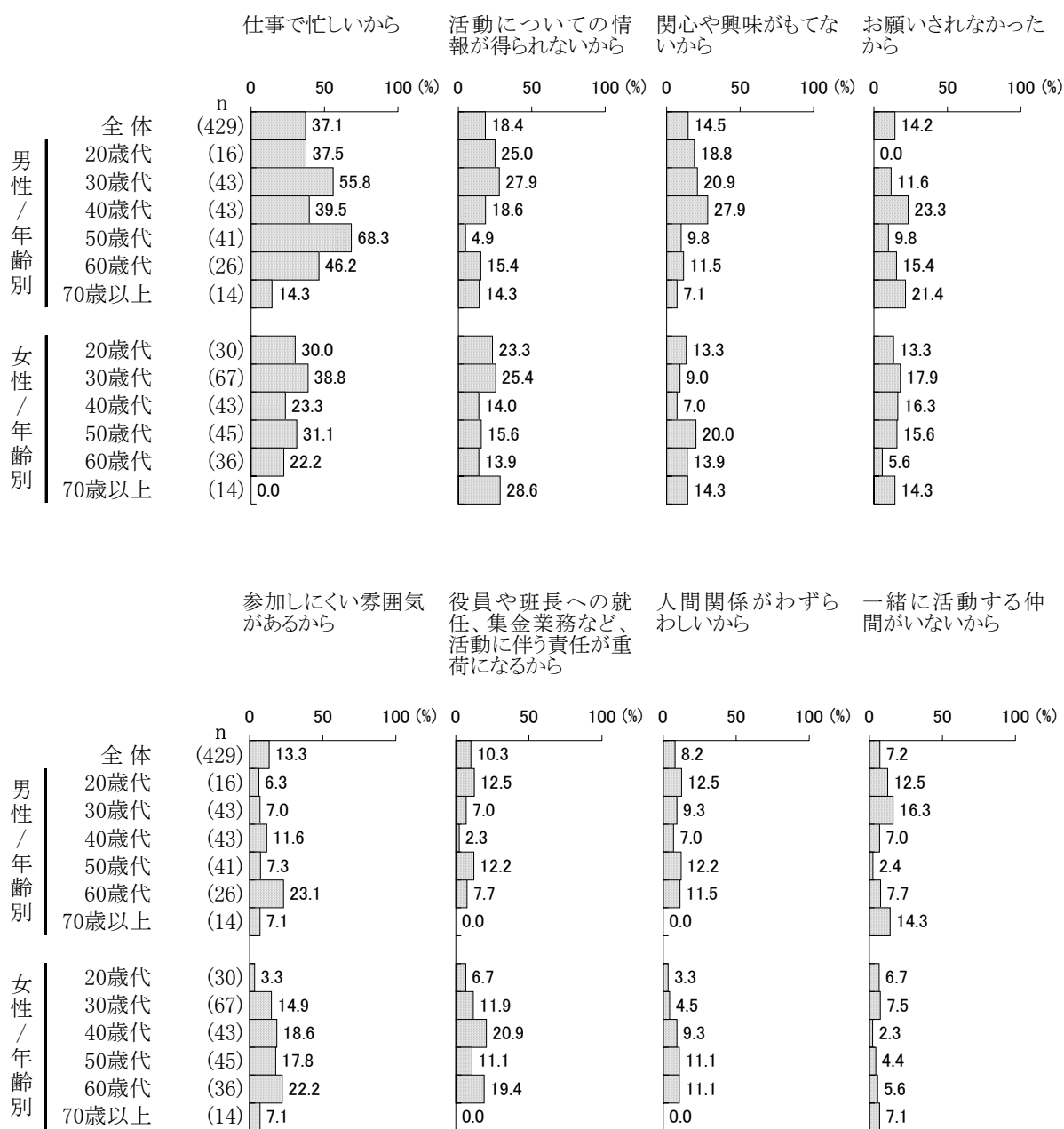
問 24-2 町内会・自治会活動に参加していない主な理由は何ですか。(○は3つまで)

図表 5-6 町内会・自治会活動に参加していない主な理由



町内会・自治会活動に参加していない主な理由は、「仕事で忙しいから」が37.1%で最も多くなっている。以下「活動についての情報が得られないから」(18.4%)、「関心や興味をもてないから」(14.5%)、「お願いされなかったから」(14.2%)、「参加しにくい雰囲気があるから」(13.3%)、「役員や班長への就任、集金業務など、活動に伴う責任が重荷になるから」(10.3%)が1割台で続いている。(図表 5-6)

図表 5-7 町内会・自治会活動に参加していない主な理由 (性／年齢別、上位8項目)



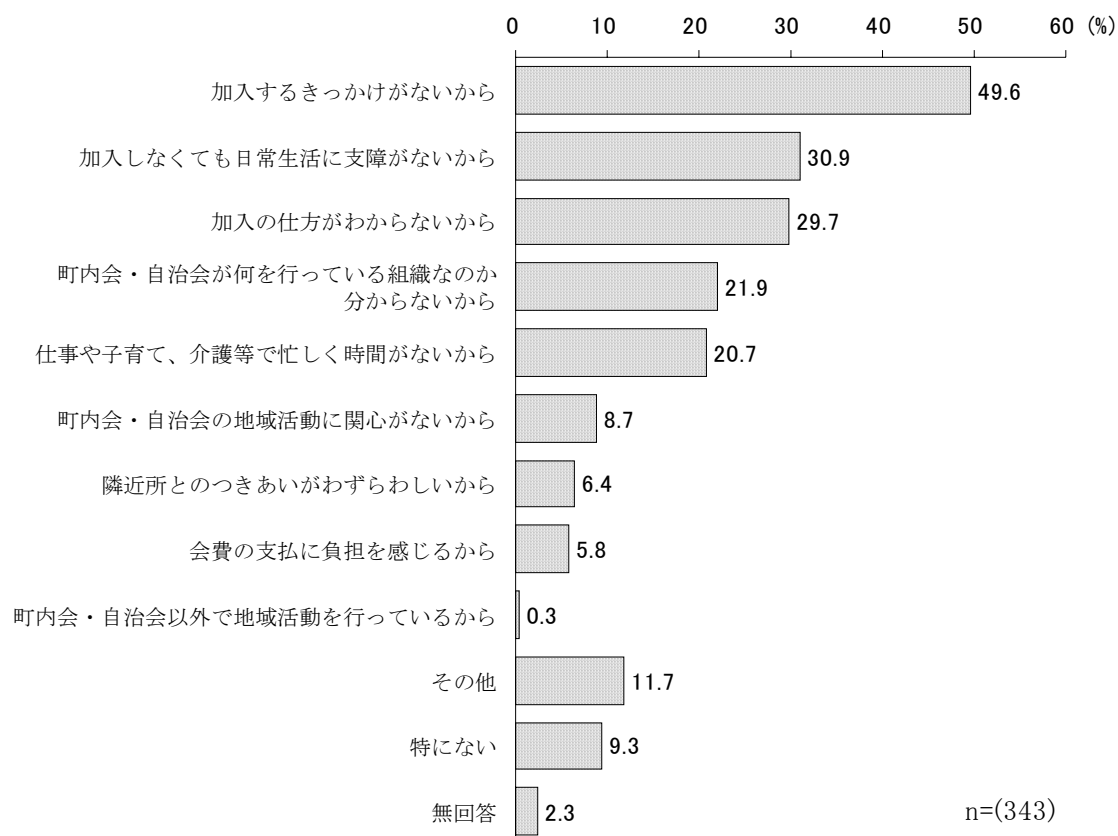
性／年齢別では、「仕事で忙しいから」は、男性では、30歳代が5割台半ば、50歳代が約7割と多くなっている。女性では、30歳代だけが市全体を上回っている。「活動についての情報が得られないから」は、男性の30歳代、女性の70歳以上が2割台後半で多くなっている。「関心や興味がもてないから」は、男性の30歳代～40歳代、女性の50歳代が2割～2割台後半となっている。(図表5-7)

5－4 町内会・自治会に加入しない主な理由

◎ 「加入するきっかけがないから」が49.6%

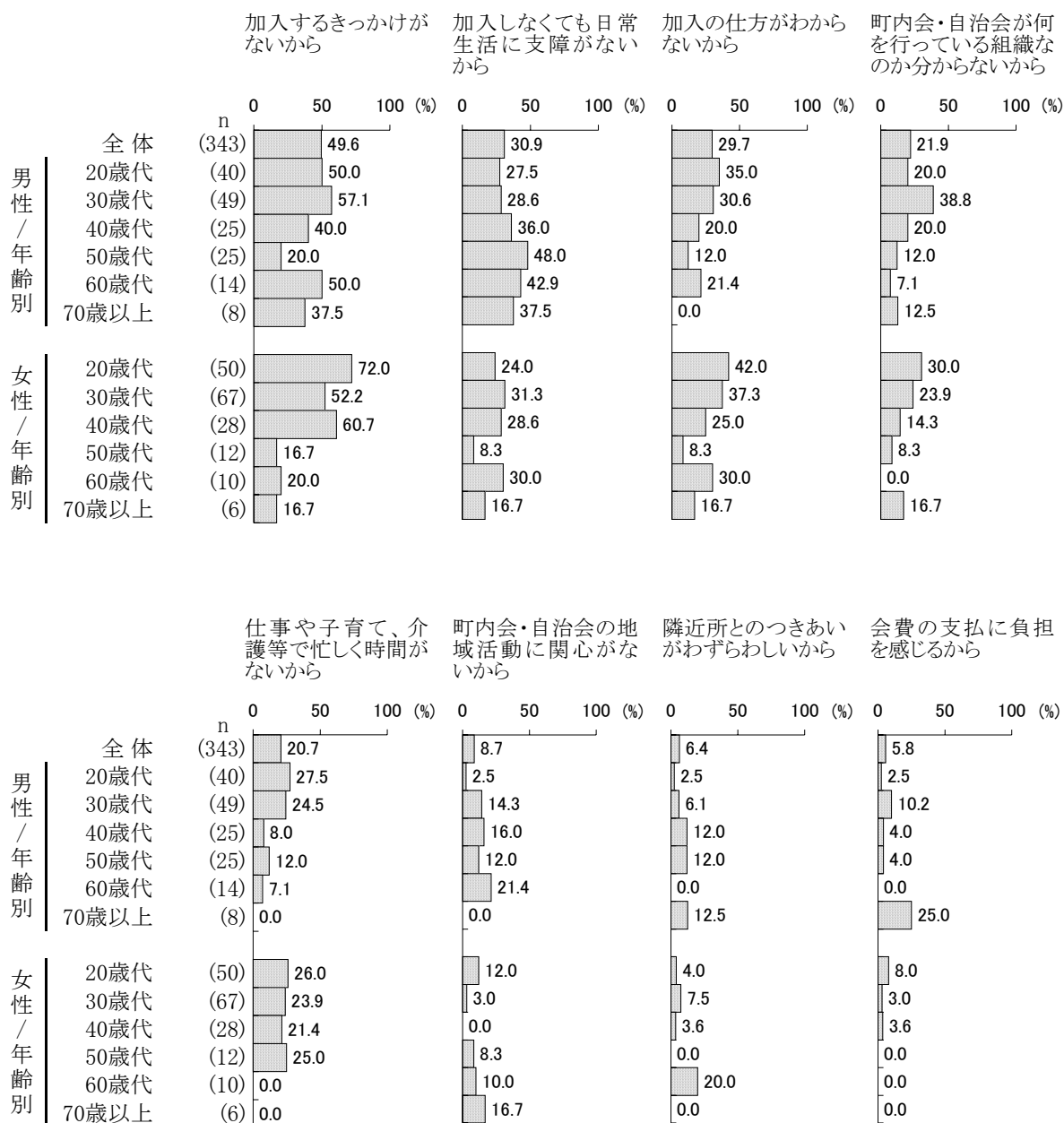
(問 24 で、町内会・自治会に「2. 加入していない」と答えた方にうかがいます。)
問 25 町内会・自治会に加入しない主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 5－8 町内会・自治会に加入しない主な理由



町内会・自治会に加入しない主な理由は、「加入するきっかけがないから」が49.6%で最も多くなっている。以下「加入しなくても日常生活に支障がないから」(30.9%)、「加入の仕方がわからないから」(29.7%)、「町内会・自治会が何を行っている組織なのか分からないから」(21.9%)、「仕事や子育て、介護等で忙しく時間がないから」(20.7%)と続いている。(図表 5－8)

図表 5-9 町内会・自治会に加入しない主な理由 (性／年齢別、上位8項目)



性／年齢別では、「加入するきっかけがないから」は、男性では、30歳代が5割台後半、女性では、20歳代が7割台前半となっている。「加入しなくても日常生活に支障がないから」は、男女ともに20歳代が市全体を下回って2割台となっているが、「加入の仕方がわからないから」では、男女ともに20歳代は、3割台半ば～4割台前半と多くなっている。(図表5-9)

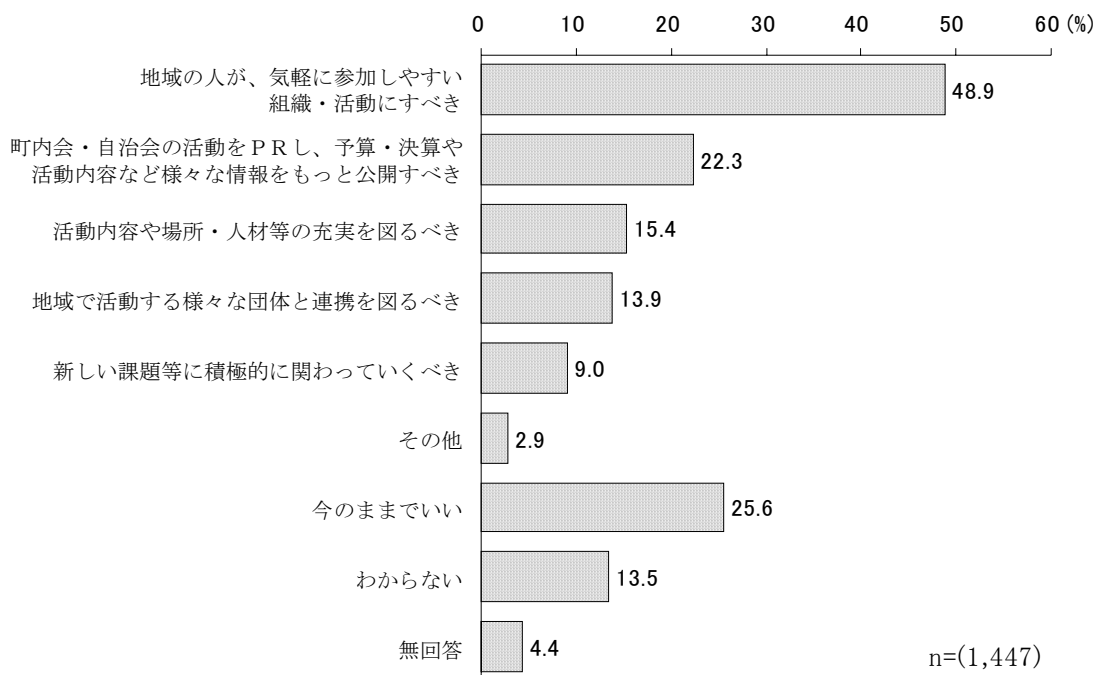
※男女ともに40歳代以上は、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。

5－5 町内会・自治会活動に期待すること

◎ 「地域の人が、気軽に参加しやすい組織・活動にすべき」が48.9%

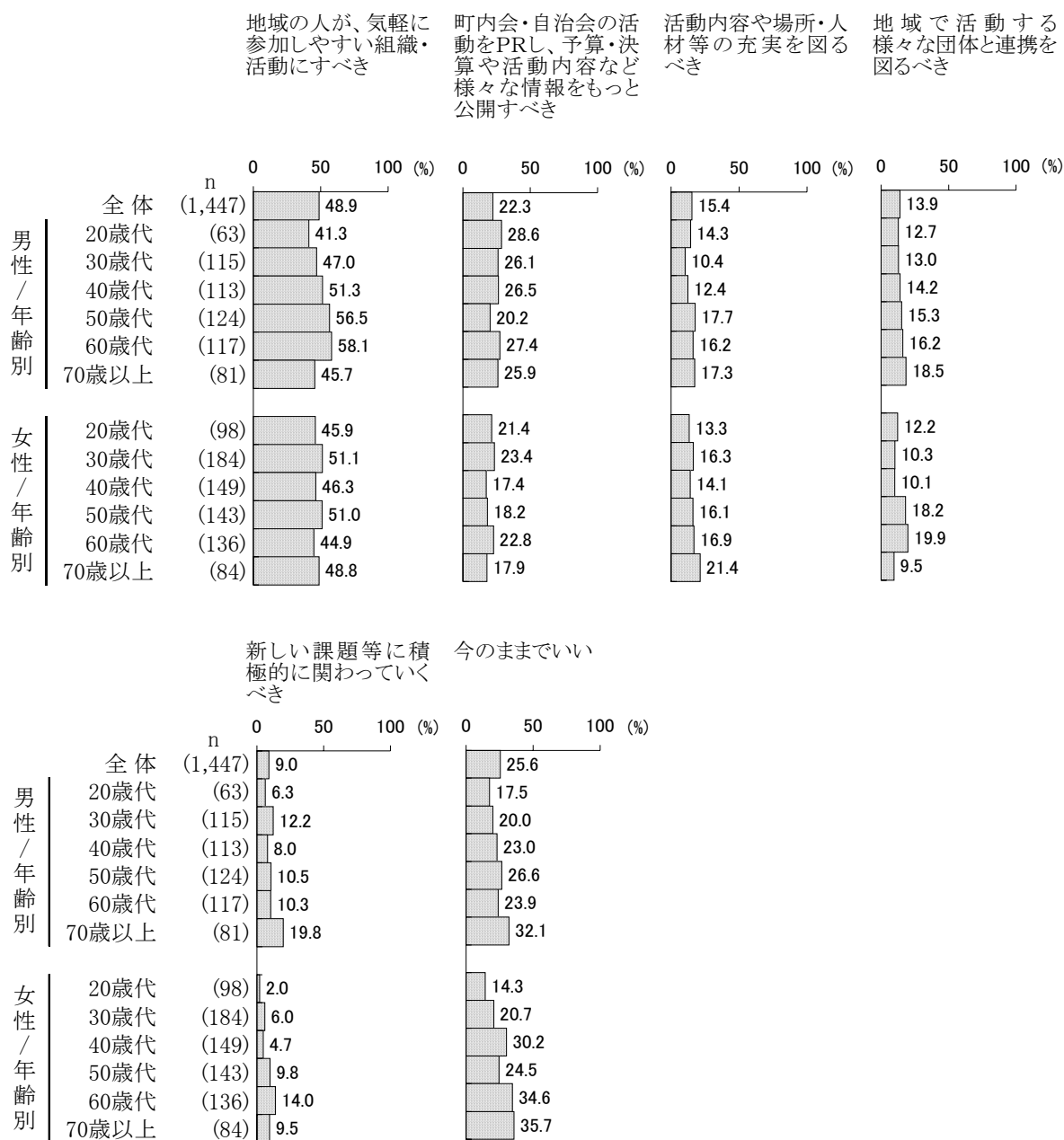
問 26 暮らしやすい地域づくりのために、町内会・自治会活動にどのようなことを期待しますか。(〇は3つまで)

図表 5－10 町内会・自治会活動に期待すること



町内会・自治会活動に期待することは、「地域の人が、気軽に参加しやすい組織・活動にすべき」が48.9%で最も多くなっている。以下「町内会・自治会の活動をPRし、予算・決算や活動内容など様々な情報をもっと公開すべき」(22.3%)、「活動内容や場所・人材等の充実を図るべき」(15.4%)、「地域で活動する様々な団体と連携を図るべき」(13.9%)と続いている。一方、「今のままでいい」は25.6%となっている。(図表5－10)

図表 5-11 町内会・自治会活動に期待すること (性／年齢別)



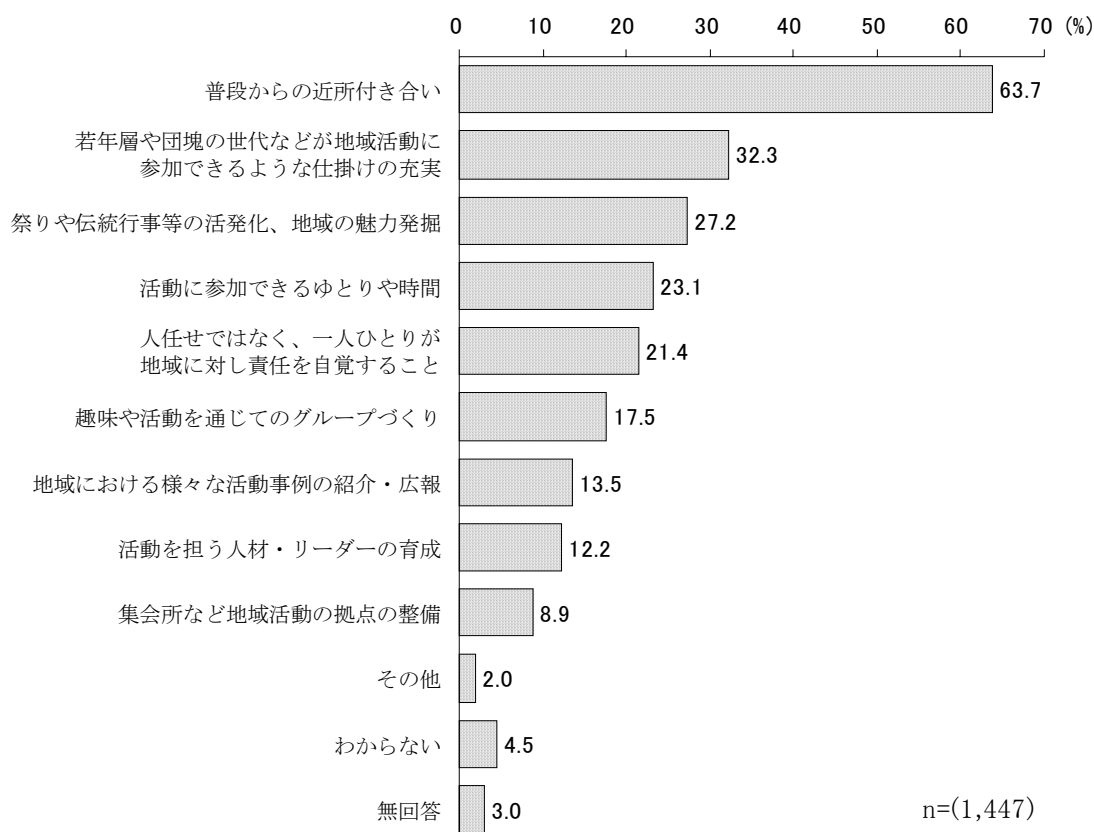
性／年齢別では、「地域の人が、気軽に参加しやすい組織・活動にすべき」は、いずれの年齢層でも4割～5割台となっている。「町内会・自治会の活動をPRし、予算・決算や活動内容など様々な情報をもっと公開すべき」は、いずれの年齢層でも1割～2割台となっており、大きな差はみられない。「今のままでいい」は、男性の70歳以上、女性の40歳代と60歳代以上が3割台前半～3割台半ばとなっている。(図表5-11)

5－6 地域の活動を活性化し、住民の連帯感を生み出すのに大切なもの

◎ 「普段からの近所付き合い」が63.7%で最も多い

問 27 地域の活動を活性化し、住民の連帯感を生み出すには、何が大切だと思いますか。
(○は3つまで)

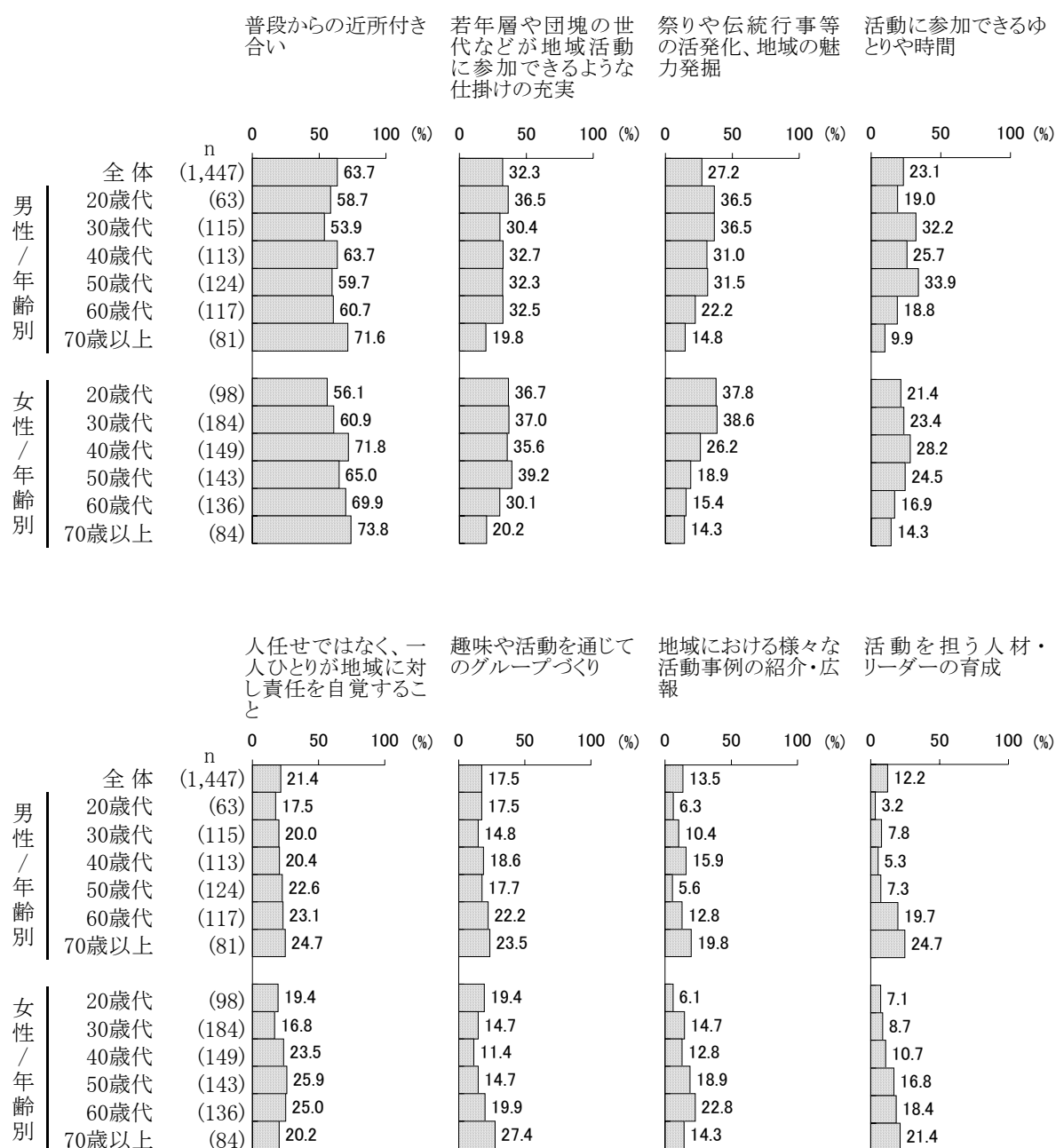
図表 5－12 地域の活動を活性化し、住民の連帯感を生み出すのに大切なもの



地域の活動を活性化し、住民の連帯感を生み出すのに大切なものは、「普段からの近所付き合い」が63.7%で最も多くなっている。以下「若年層や団塊の世代などが地域活動に参加できるような仕掛けの充実」(32.3%)、「祭りや伝統行事等の活発化、地域の魅力発掘」(27.2%)、「活動に参加できるゆとりや時間」(23.1%)、「人任せではなく、一人ひとりが地域に対し責任を自覚すること」(21.4%)と続いている。(図表5－12)

図表 5-13 地域の活動を活性化し、住民の連帯感を生み出すのに大切なもの

(性／年齢別、上位 8 項目)



性／年齢別では、「普段からの近所付き合い」は、男性の 70 歳以上、女性の 40 歳代と 70 歳以上が 7 割台前半で多くなっている。「若年層や団塊の世代などが地域活動に参加できるような仕掛けの充実」は、男女ともに 20 歳代～60 歳代が 3 割台、70 歳以上が約 2 割となっている。「祭りや伝統行事等の活発化、地域の魅力発掘」は、男女ともに 20 歳代～30 歳代が 3 割台半ば～3 割台後半で多くなっている。(図表 5-13)

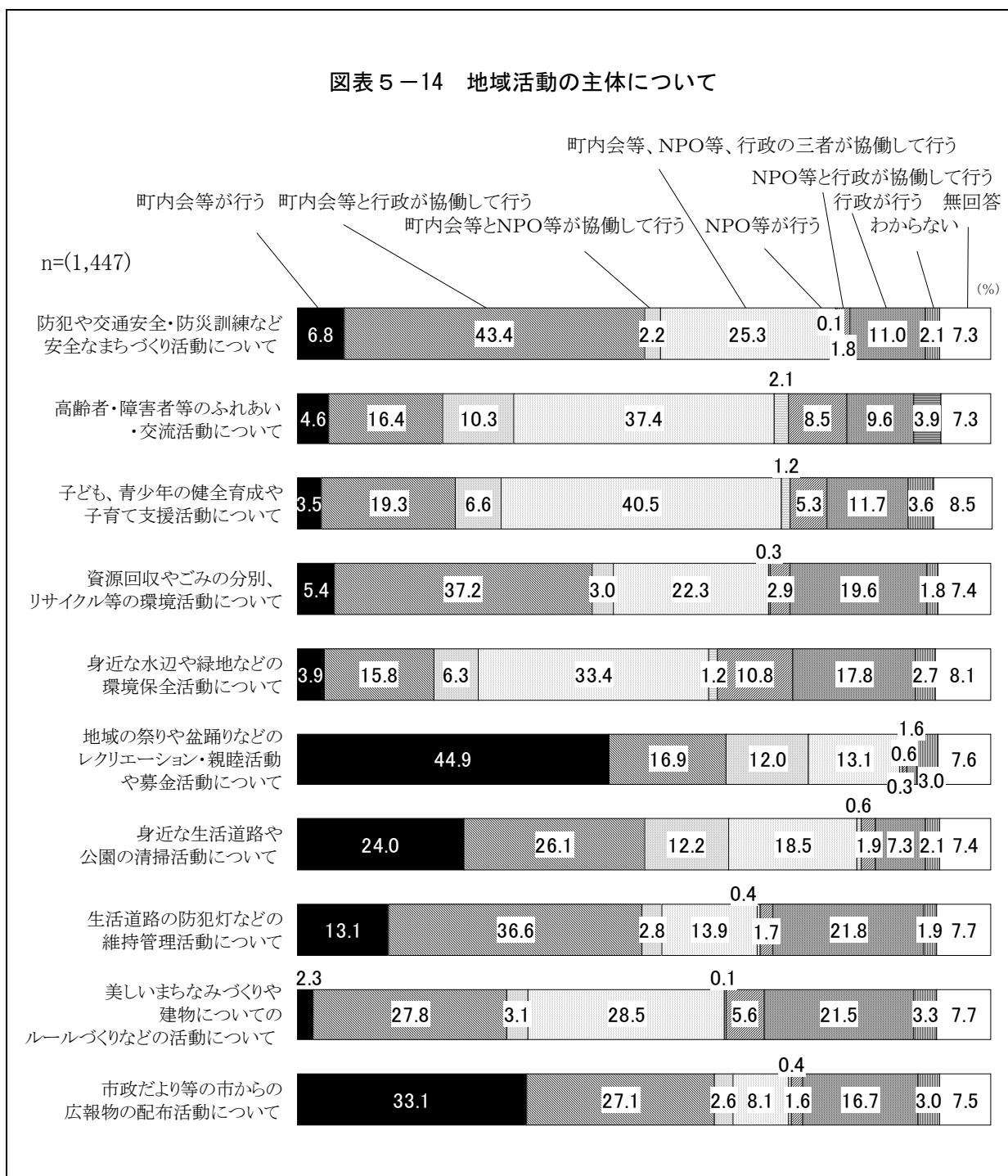
5-7 地域活動の主体について

◎ 『町内会』または『町内会との協働』が活動主体の中心

問 28 次の（１）～（１０）の活動は、主に誰が行うのが適当だと思いますか。
（それぞれについて○は１つずつ）

	1 町内会等が行う	2 町内会等と行政が協働して行う	3 町内会等とNPO等が協働して行う	4 町内会等、NPO等、行政の三者が協働して行う	5 NPO等が行う	6 NPO等と行政が協働して行う	7 行政が行う	8 わからない
（１）防犯や交通安全・防災訓練など安全なまちづくり活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（２）高齢者・障害者等のふれあい・交流活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（３）子ども、青少年の健全育成や子育て支援活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（４）資源回収やごみの分別、リサイクル等の環境活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（５）身近な水辺や緑地などの環境保全活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（６）地域の祭りや盆踊りなどのレクリエーション・親睦活動や募金活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（７）身近な生活道路や公園の清掃活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（８）生活道路の防犯灯などの維持管理活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（９）美しいまちなみづくりや建物についてのルールづくりなどの活動	1	2	3	4	5	6	7	8
（１０）市政だより等の市からの広報物の配布活動	1	2	3	4	5	6	7	8

図表 5-14 地域活動の主体について



地域活動のうち「地域の祭りや盆踊りなどのレクリエーション・親睦活動や募金活動について」は、『町内会等が行う』が44.9%で最も多くなっている。「防犯や交通安全・防災訓練など安全なまちづくり活動について」は、『町内会等と行政が協働して行う』が43.4%、「子ども、青少年の健全育成や子育て支援活動について」は、『町内会等、NPO等、行政の三者が協働して行う』が40.5%で多くなっている。(図表 5-14)

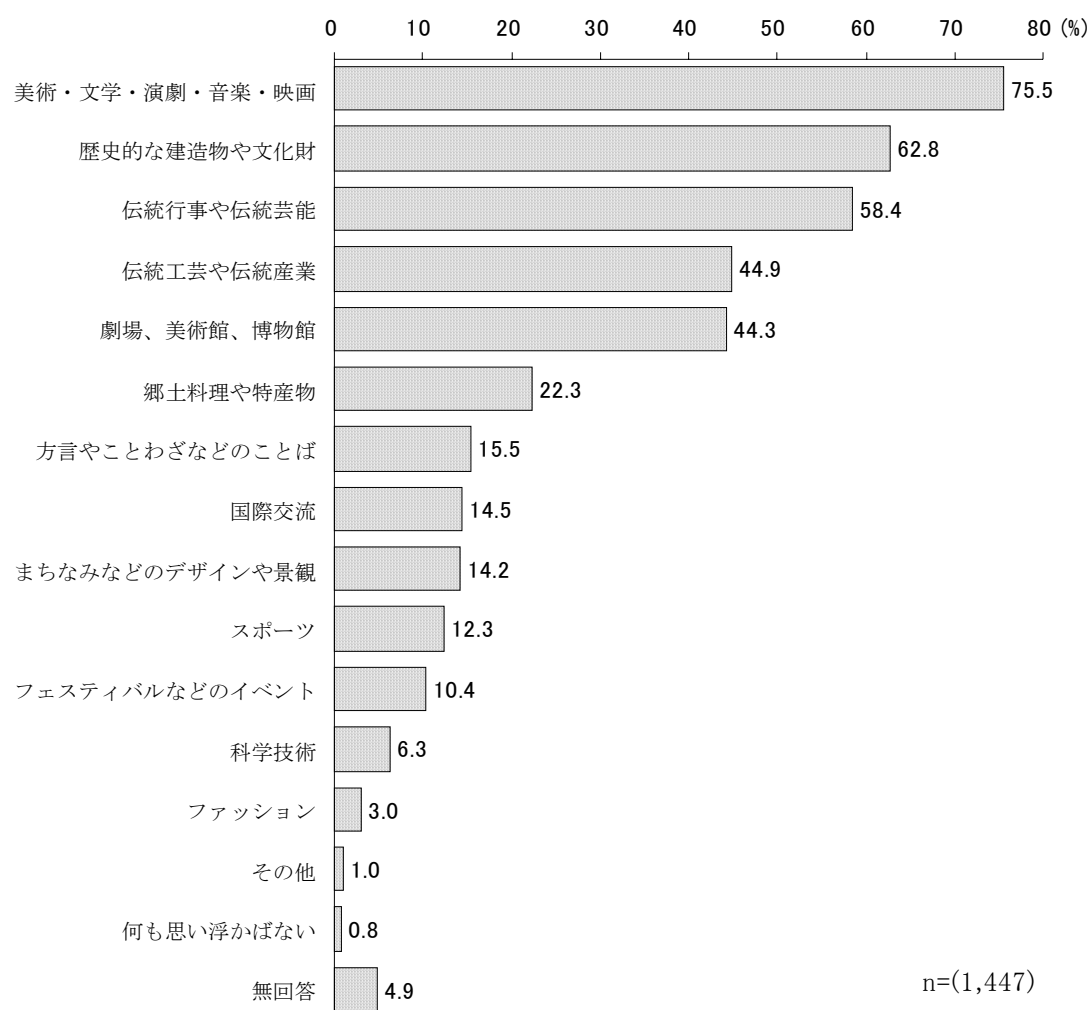
6 文化・芸術について

6-1 「文化」という言葉から思い浮かぶもの

◎ 「美術・文学・演劇・音楽・映画」が75.5%

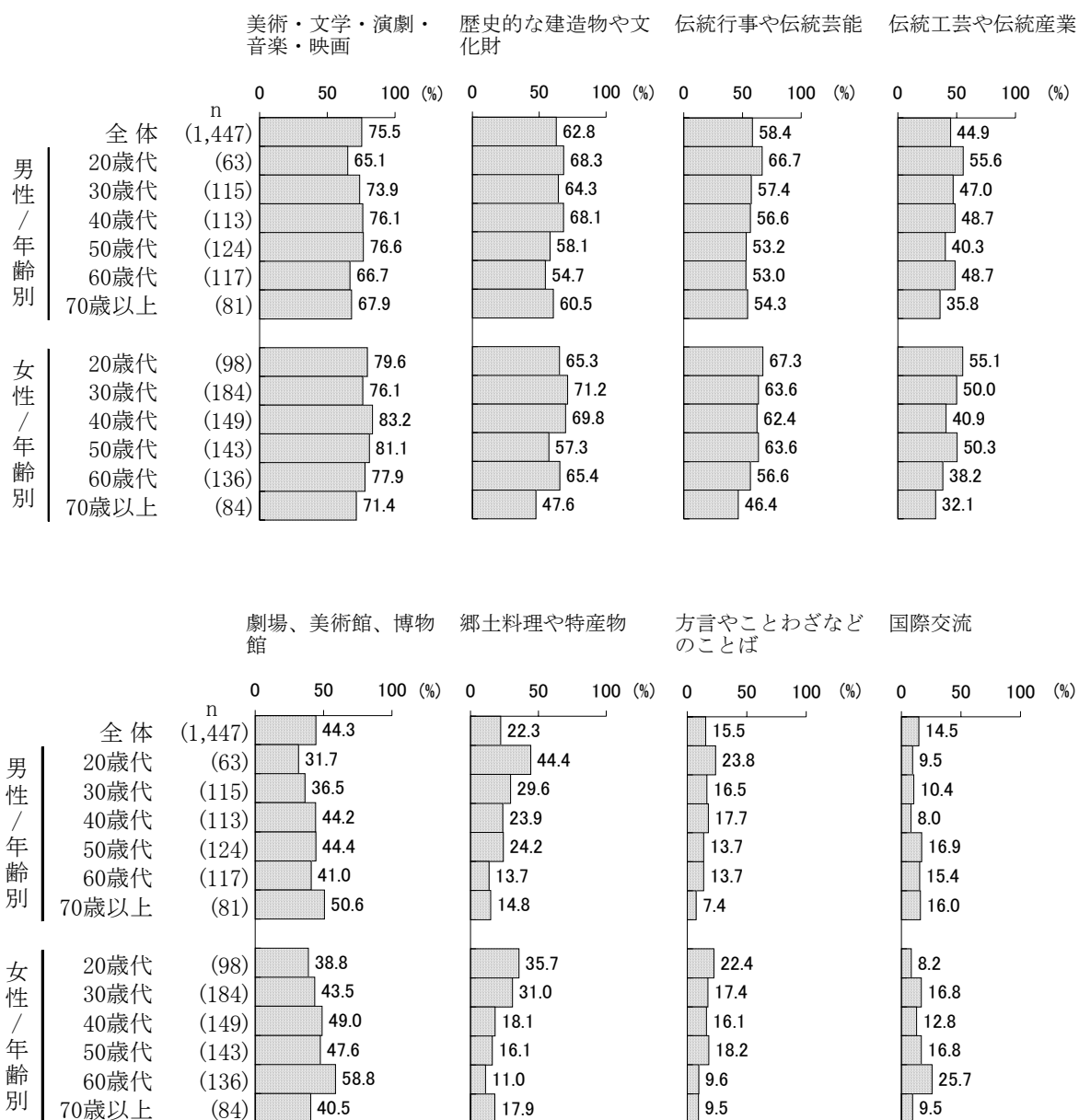
問 29 「文化」という言葉から、まず何を思い浮かべますか。(○は5つまで)

図表 6-1 「文化」という言葉から思い浮かぶもの



『文化』という言葉から思い浮かぶものは、「美術・文学・演劇・音楽・映画」が75.5%で最も多くなっている。以下「歴史的な建造物や文化財」(62.8%)、「伝統行事や伝統芸能」(58.4%)、「伝統工芸や伝統産業」(44.9%)、「劇場、美術館、博物館」(44.3%)と続いている。(図表6-1)

図表 6-2 「文化」という言葉から思い浮かぶもの (性／年齢別、上位8項目)



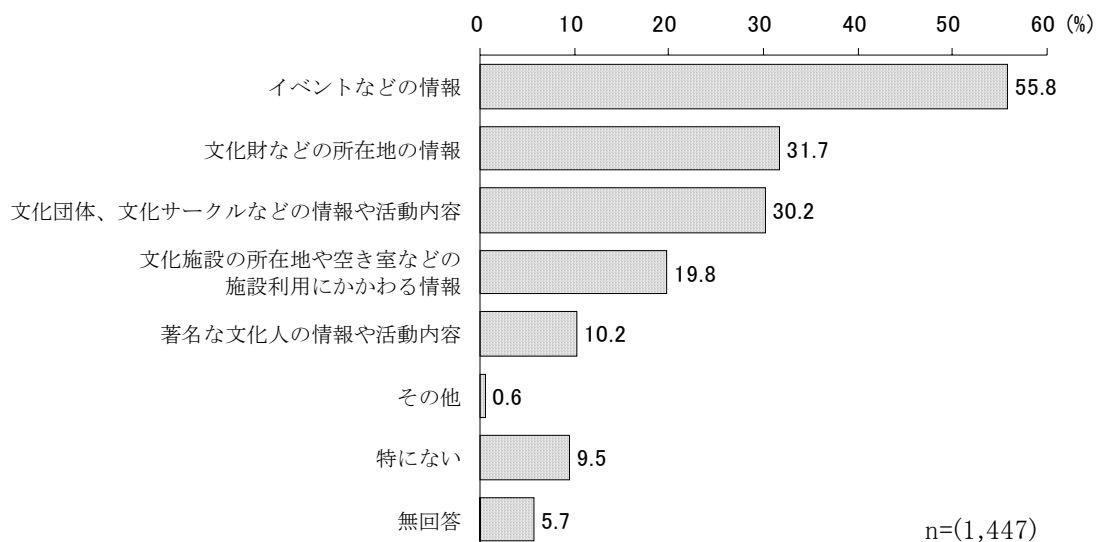
性／年齢別では、「美術・文学・演劇・音楽・映画」は、男女ともに40歳代～50歳代が多く、特に女性の40歳代～50歳代が8割を超えている。「歴史的な建造物や文化財」は、男性の20歳代と40歳代、女性の30歳代～40歳代が7割前後で多くなっている。「伝統行事や伝統芸能」、「伝統工芸や伝統産業」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。「劇場、美術館、博物館」は、男性の70歳以上、女性の60歳代が5割台で最も多くなっている。(図表6-2)

6-2 文化に関する知りたい情報

◎ 「イベントなどの情報」が55.8%で半数以上

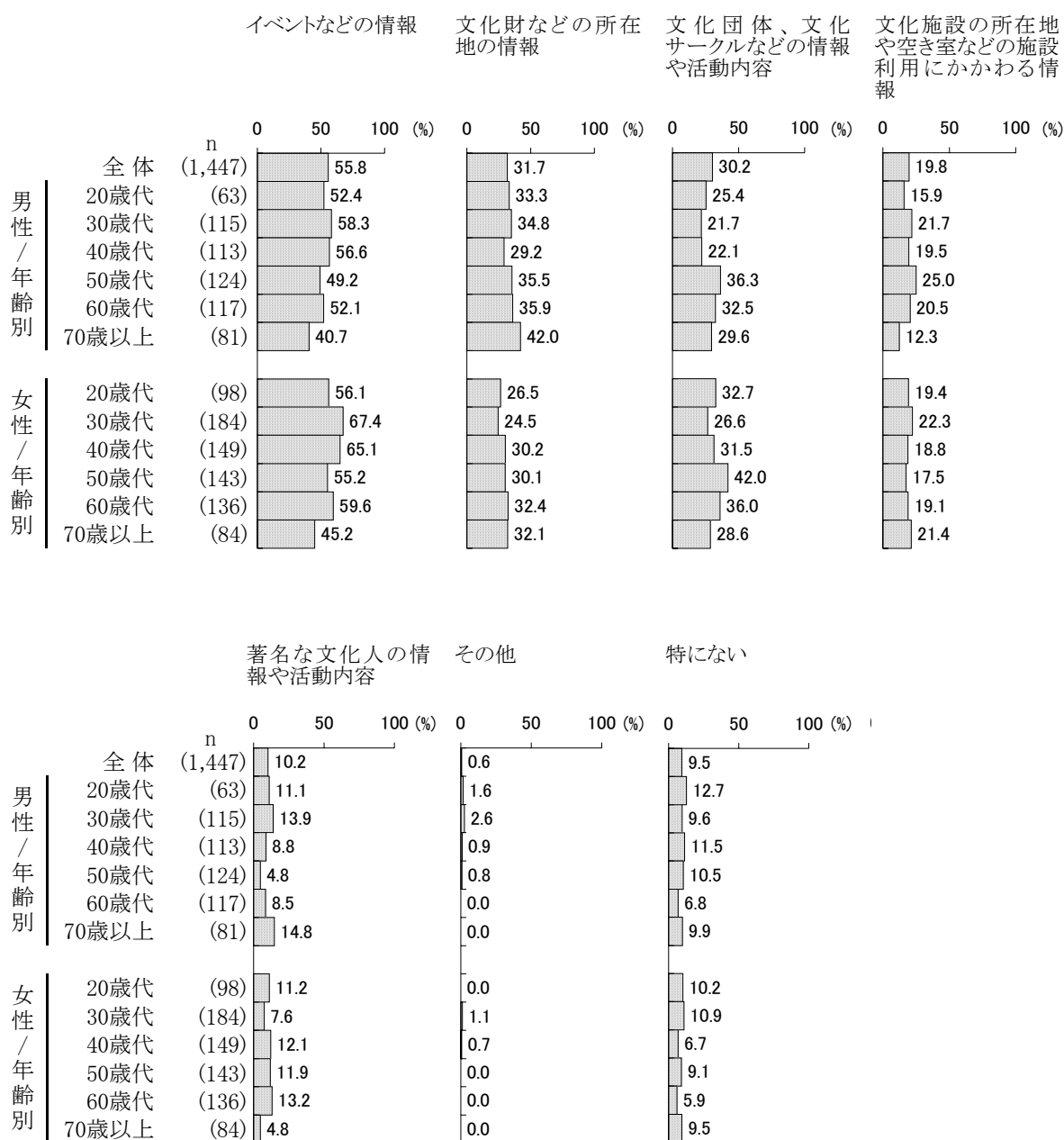
問 30 文化に関するどんな情報を知りたいですか。(○は2つまで)

図表 6-3 文化に関する知りたい情報



文化に関する知りたい情報は、「イベントなどの情報」が55.8%で最も多くなっている。以下「文化財などの所在地の情報」(31.7%)、「文化団体、文化サークルなどの情報や活動内容」(30.2%)、「文化施設の所在地や空き室などの施設利用にかかわる情報」(19.8%)と続いている。(図表6-3)

図表6-4 文化に関する知りたい情報 (性/年齢別)



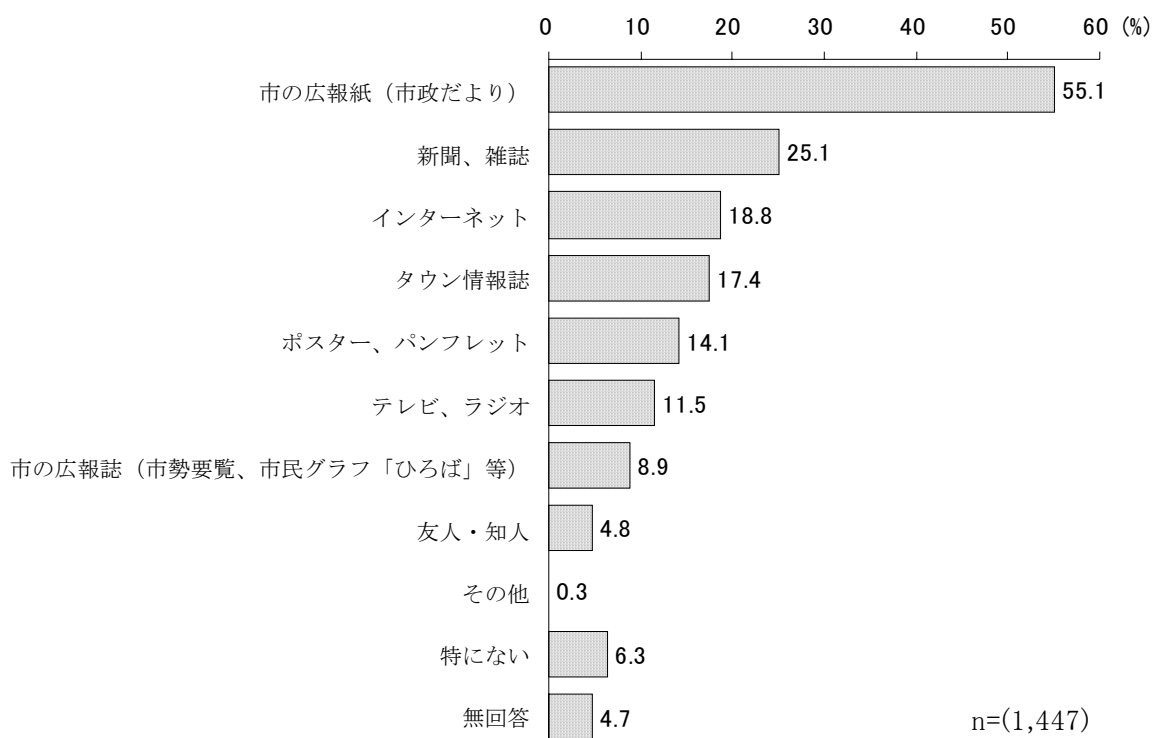
性/年齢別では、「イベントなどの情報」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の30歳代～40歳代が6割を超えている。「文化財などの所在地の情報」は、男性の70歳以上が4割台前半で最も多くなっている。「文化団体、文化サークルなどの情報や活動内容」は、男女ともに50歳代が多くなっており、特に女性の50歳代が4割台前半となっている。(図表6-4)

6－3 文化に関する情報の入手方法

◎ 「市の広報紙（市政だより）」が55.1%で最も多い

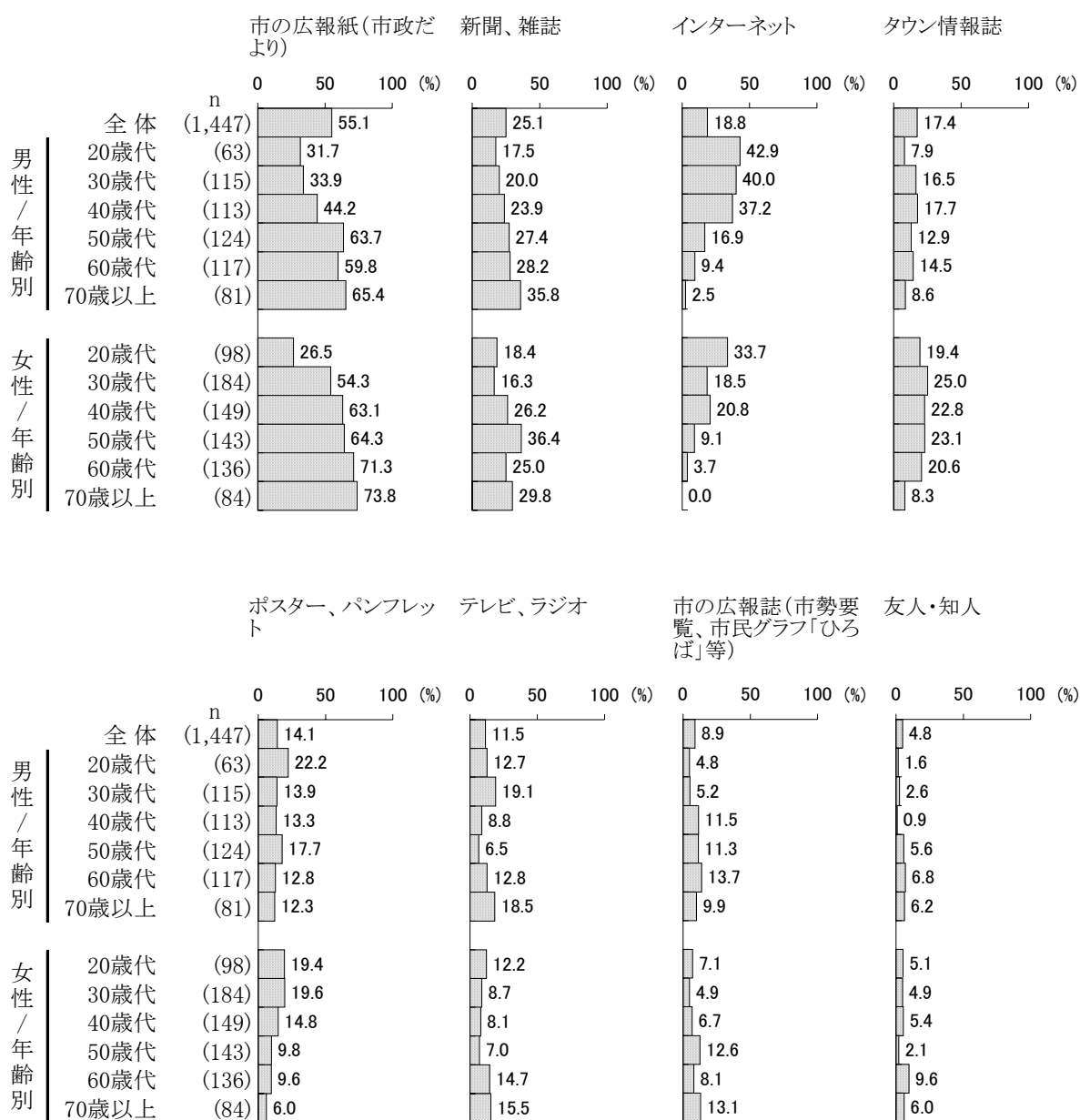
問 31 文化に関する情報を主に何で得ていますか。（○は2つまで）

図表 6－5 文化に関する情報の入手方法



文化に関する情報の入手方法は、「市の広報紙（市政だより）」が55.1%で他の項目を大きく上回る割合となっている。以下「新聞、雑誌」（25.1%）、「インターネット」（18.8%）、「タウン情報誌」（17.4%）、「ポスター、パンフレット」（14.1%）、「テレビ、ラジオ」（11.5%）と続いている。（図表 6－5）

図表 6-6 文化に関する情報の入手方法 (性/年齢別、上位 8 項目)



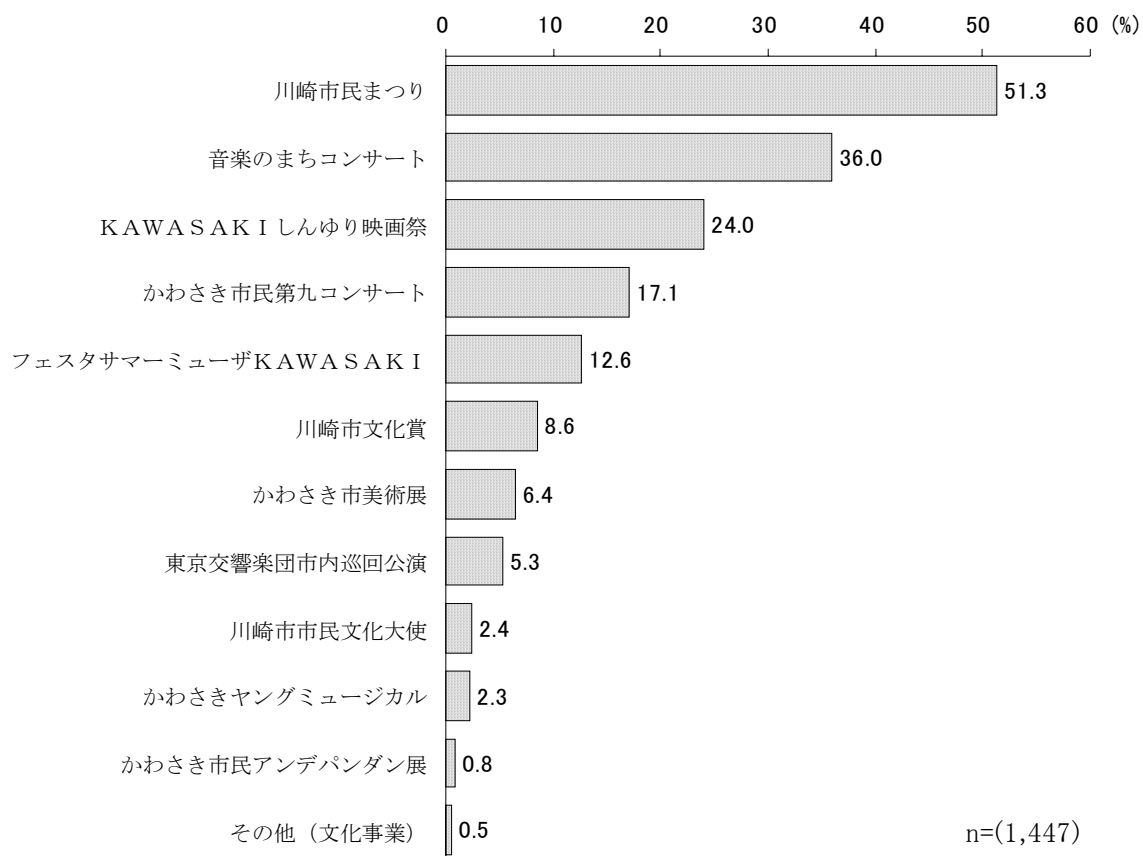
性/年齢別では、「市の広報紙（市政だより）」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、70歳以上は6割台半ば～7割台前半で多く、20歳代では、2割台半ば～3割台前半で少なくなっている。「新聞、雑誌」は、男性の70歳以上、女性の50歳代が3割台半ばで多くなっている。「インターネット」は、年齢が高くなるにつれ、割合が少なくなる傾向となっており、特に男性の20歳代～30歳代が4割～4割台前半で多く、全体的に女性より男性の方が多くなっている。（図表 6-6）

6-4-1 川崎市の文化事業の認知状況

◎ 「川崎市民まつり」が51.3%で半数以上

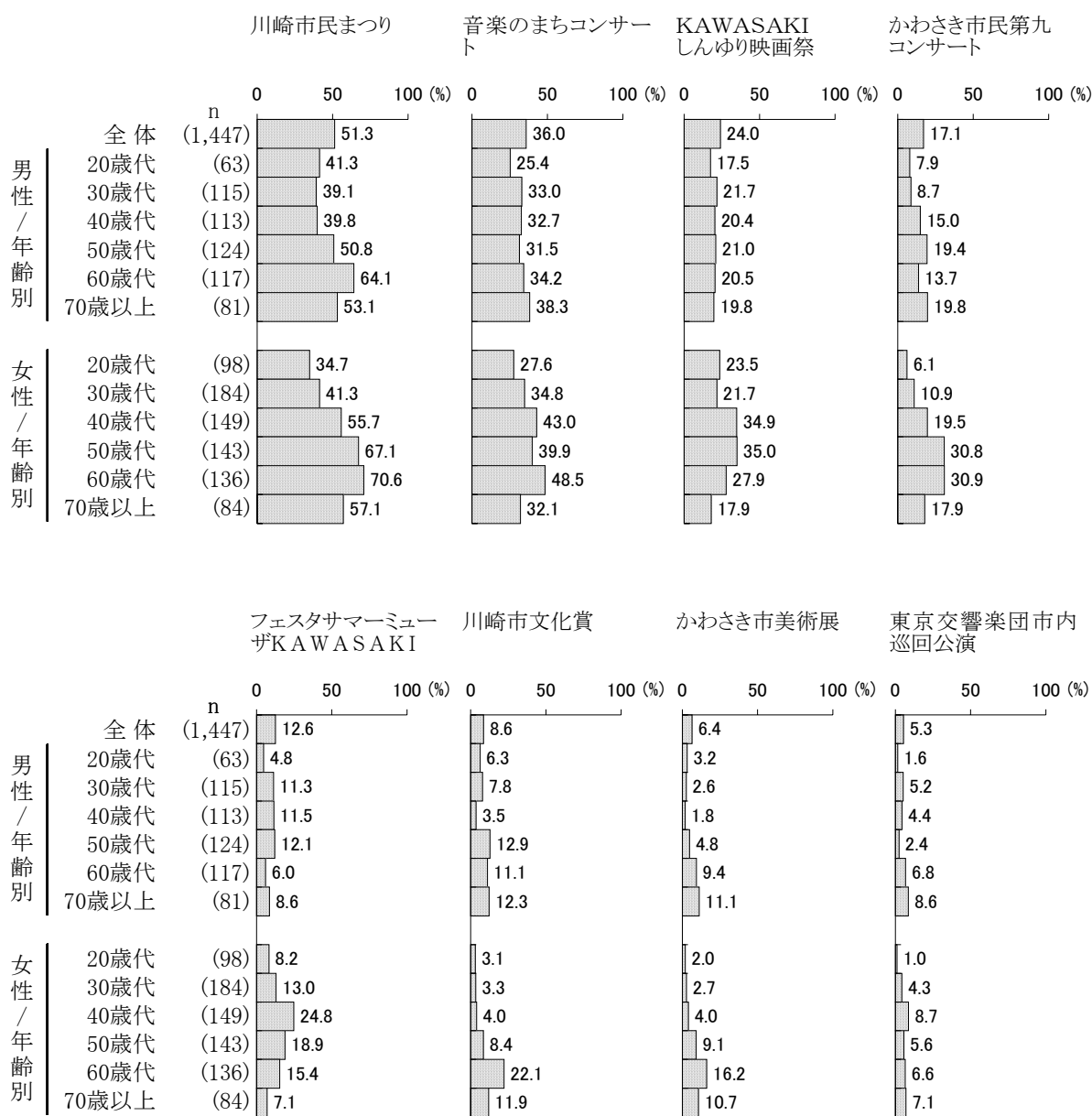
問 32 次の川崎市の文化事業を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 6-7 川崎市の文化事業の認知状況



川崎市の文化事業の認知状況は、「川崎市民まつり」が 51.3%で最も多くなっている。以下「音楽のまちコンサート」(36.0%)、「KAWASAKI しんゆり映画祭」(24.0%)、「かわさき市民第九コンサート」(17.1%)、「フェスタサマーミューザKAWASAKI」(12.6%)と続いている。他の項目は1割未満となっている。(図表 6-7)

図表 6-8 川崎市の文化事業の認知状況 (性/年齢別、上位8項目)



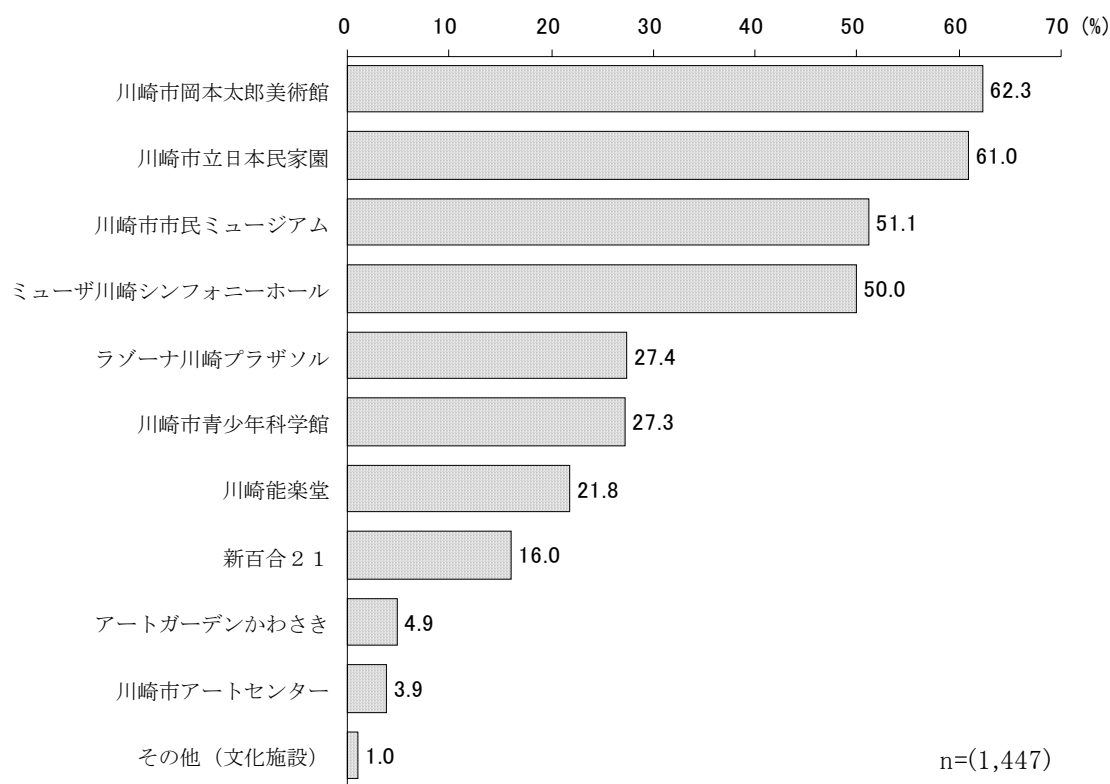
性/年齢別では、「川崎市民まつり」は、男性の60歳代、女性の50歳代～60歳代が6割台半ば～約7割と多くなっている。「音楽のまちコンサート」は、女性の60歳代が約5割で多くなっている。「KAWASAKI しんゆり映画祭」は、男性では、いずれの年齢層でも2割前後、女性では、40歳代～50歳代が3割台半ばとなっている。(図表6-8)

6-4-2 川崎市の文化施設の認知状況

◎ 「川崎市岡本太郎美術館」(62.3%)、「川崎市立日本民家園」(61.0%) が6割台

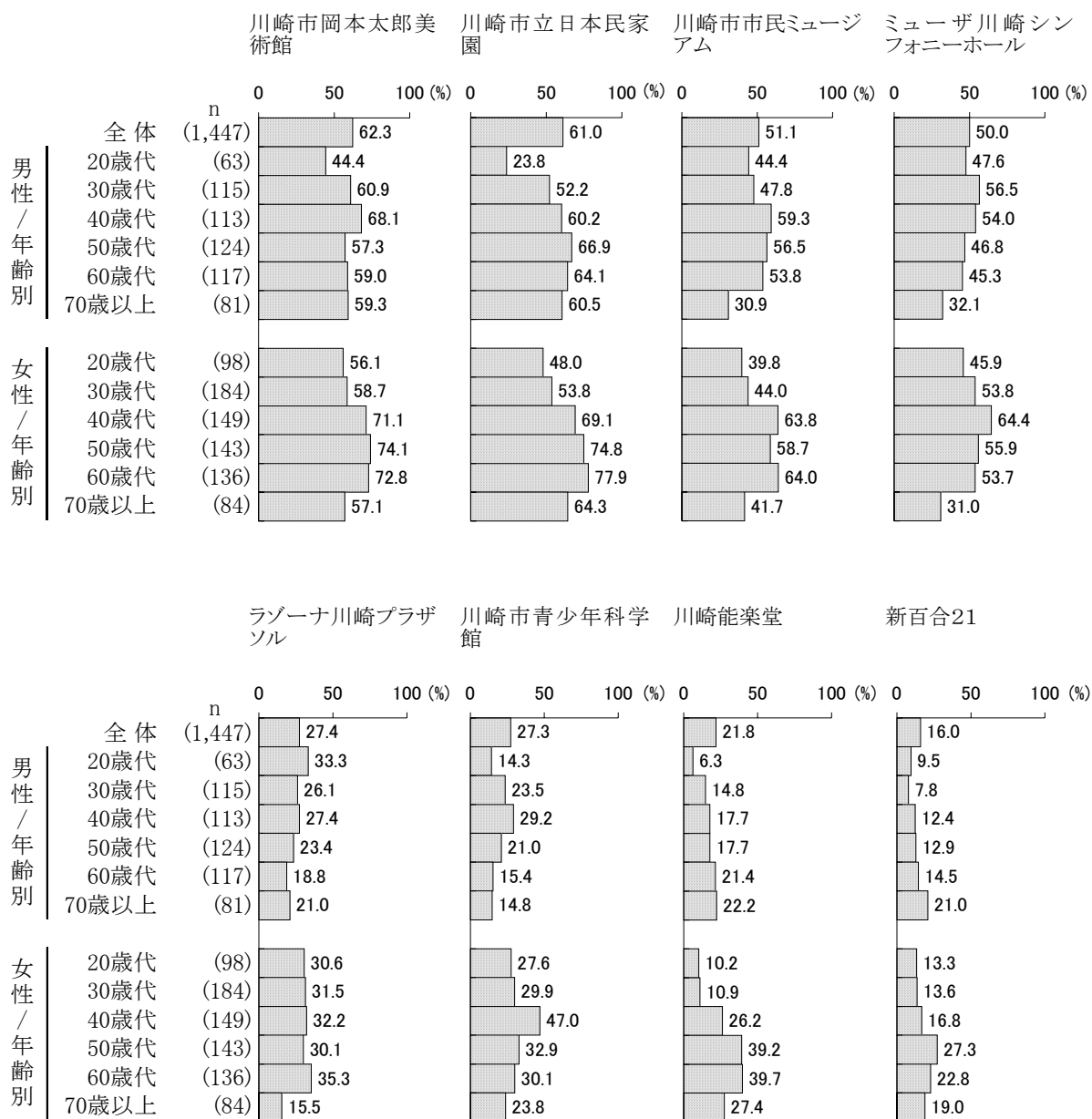
問 32 次の川崎市の文化施設を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 6-9 川崎市の文化施設の認知状況



川崎市の文化施設の認知状況は、「川崎市岡本太郎美術館」(62.3%)、「川崎市立日本民家園」(61.0%) が6割台前半で多くなっている。以下「川崎市市民ミュージアム」(51.1%)、「ミュージア川崎シンフォニーホール」(50.0%)、「ラゾーナ川崎プラザソル」(27.4%)、「川崎市青少年科学館」(27.3%)、「川崎能楽堂」(21.8%) と続いている。(図表 6-9)

図表 6-10 川崎市の文化施設の認知状況 (性/年齢別、上位8項目)



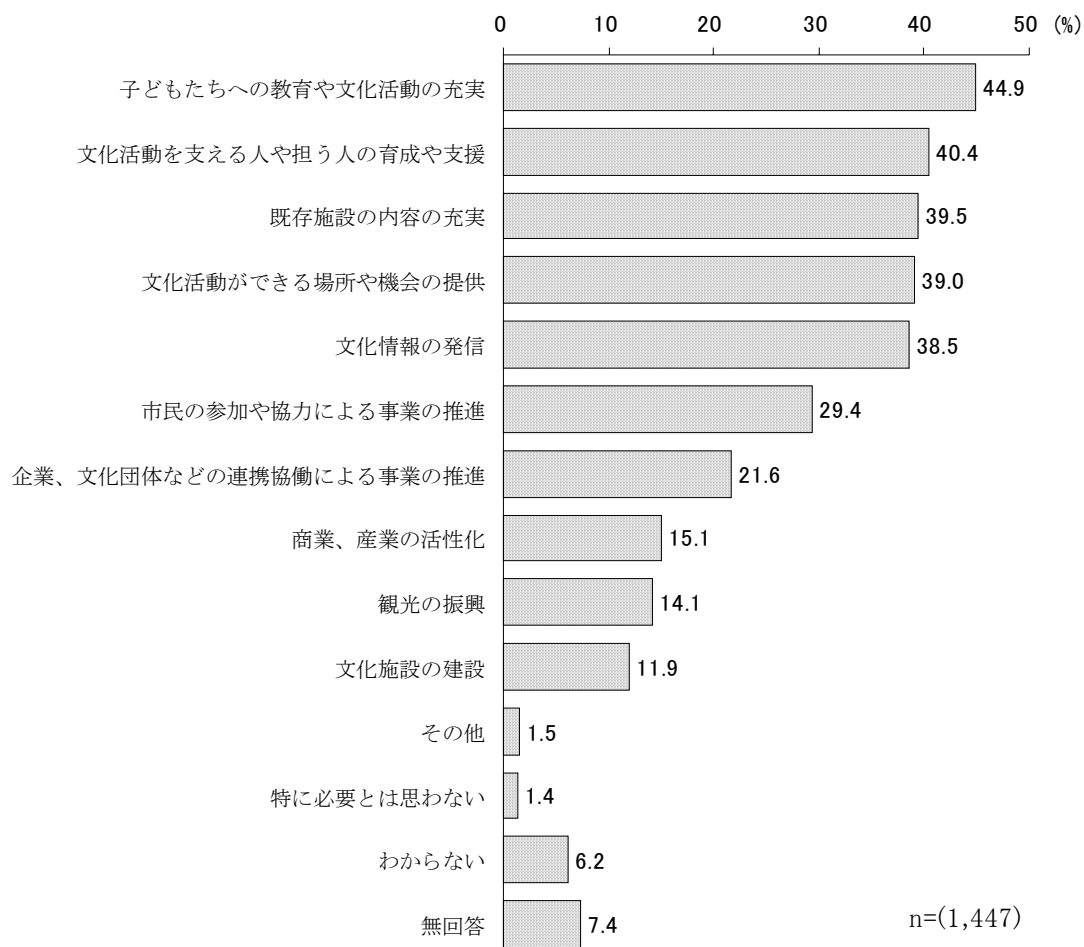
性/年齢別では、「川崎市岡本太郎美術館」は、男性の40歳代、女性の40歳代～60歳代が6割台後半～7割台半ばで多くなっている。「川崎市立日本民家園」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の50歳代～60歳代で7割を超えている。(図表6-10)

6－5 文化を振興し定着させていくために重要なもの

◎ 「子どもたちへの教育や文化活動の充実」が44.9%

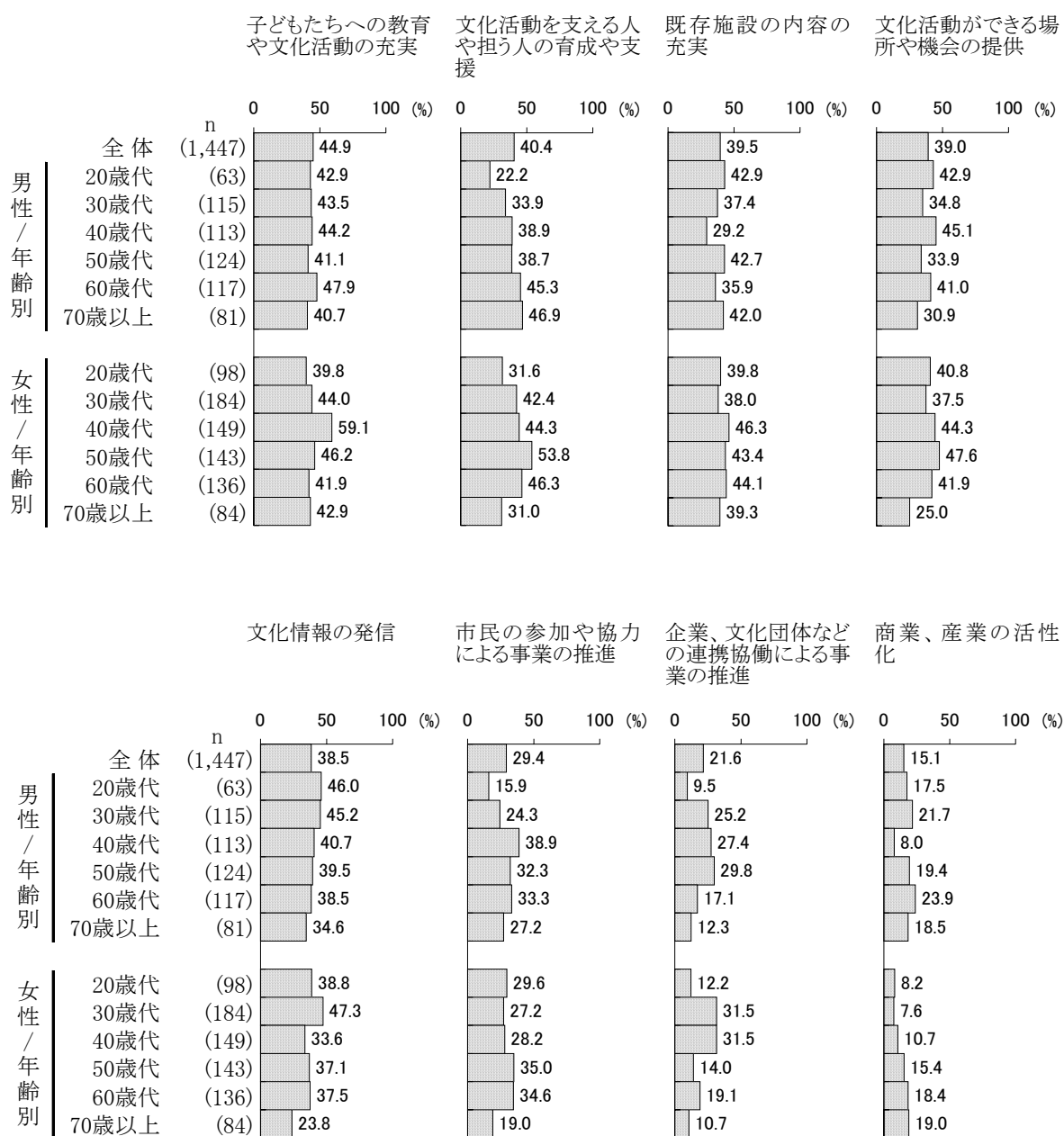
問33 まちづくりに、文化を振興し定着させていくために重要なものは何だと思いますか。
(〇は5つまで)

図表6－11 文化を振興し定着させていくために重要なもの



文化を振興し定着させていくために重要なものは、「子どもたちへの教育や文化活動の充実」が44.9%で最も多くなっている。以下「文化活動を支える人や担う人の育成や支援」(40.4%)、「既存施設の内容の充実」(39.5%)、「文化活動ができる場所や機会の提供」(39.0%)、「文化情報の発信」(38.5%)、「市民の参加や協力による事業の推進」(29.4%)と続いている。(図表6－11)

図表6-12 文化を振興し定着させていくために重要なもの (性／年齢別、上位8項目)



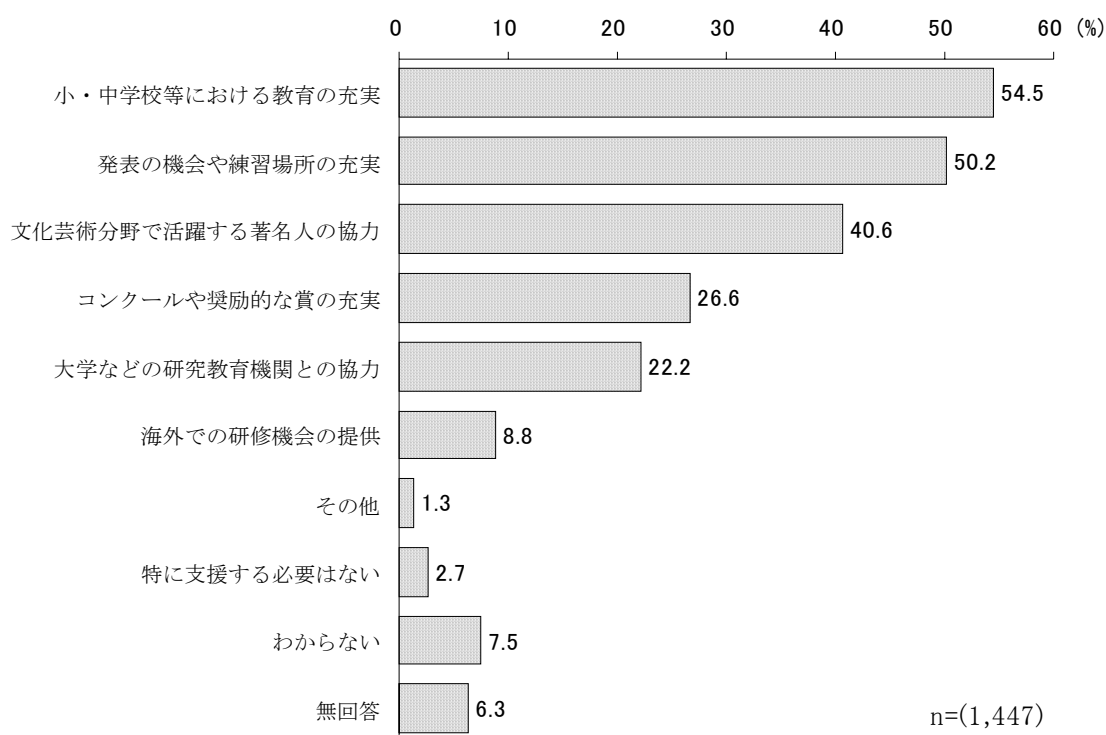
性／年齢別では、「子どもたちへの教育や文化活動の充実」は、男性では、いずれの年齢層でも4割台、女性では、40歳代が約6割で最も多くなっている。「文化活動を支える人や担う人の育成や支援」は、男性では、60歳以上が4割台半ば、女性では、50歳代が5割台前半で多く、反対に若年層では割合が少なくなっている。(図表6-12)

6－6 芸術家や文化にかかわる人などを育てたり、支援するために必要なこと

- ◎ 「小・中学校等における教育の充実」(54.5%)、「発表の機会や練習場所の充実」(50.2%) が半数以上

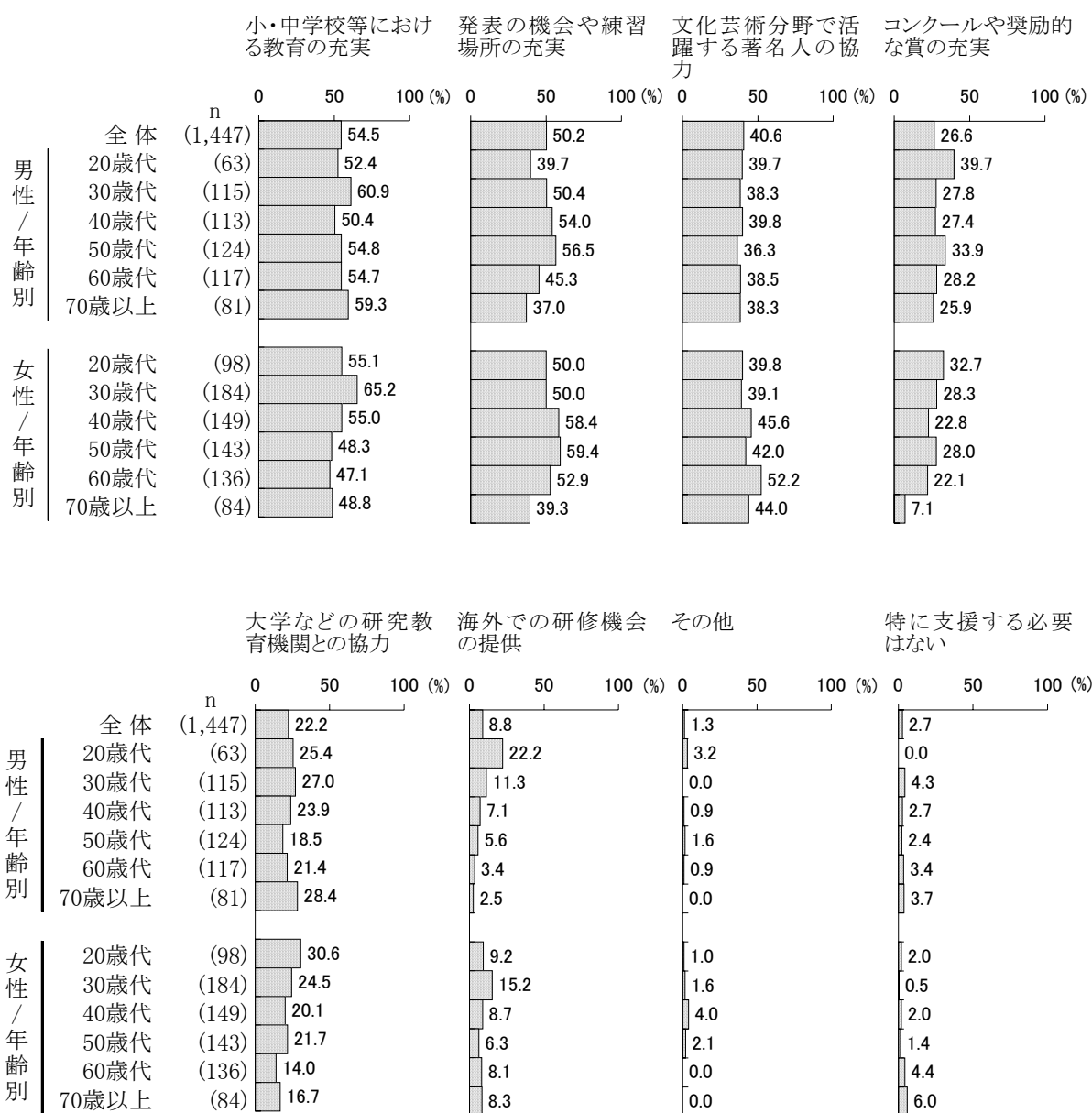
問 34 芸術家や文化にかかわる人などを育てたり、支援するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表 6－13 芸術家や文化にかかわる人などを育てたり、支援するために必要なこと



芸術家や文化にかかわる人などを育てたり、支援するために必要なことは、「小・中学校等における教育の充実」(54.5%)、「発表の機会や練習場所の充実」(50.2%) が半数を占めて多くなっている。以下「文化芸術分野で活躍する著名人の協力」(40.6%)、「コンクールや奨励的な賞の充実」(26.6%)、「大学などの研究教育機関との協力」(22.2%) と続いている。(図表 6－13)

図表 6-14 芸術家や文化にかかわる人などを育てたり、支援するために必要なこと (性／年齢別)



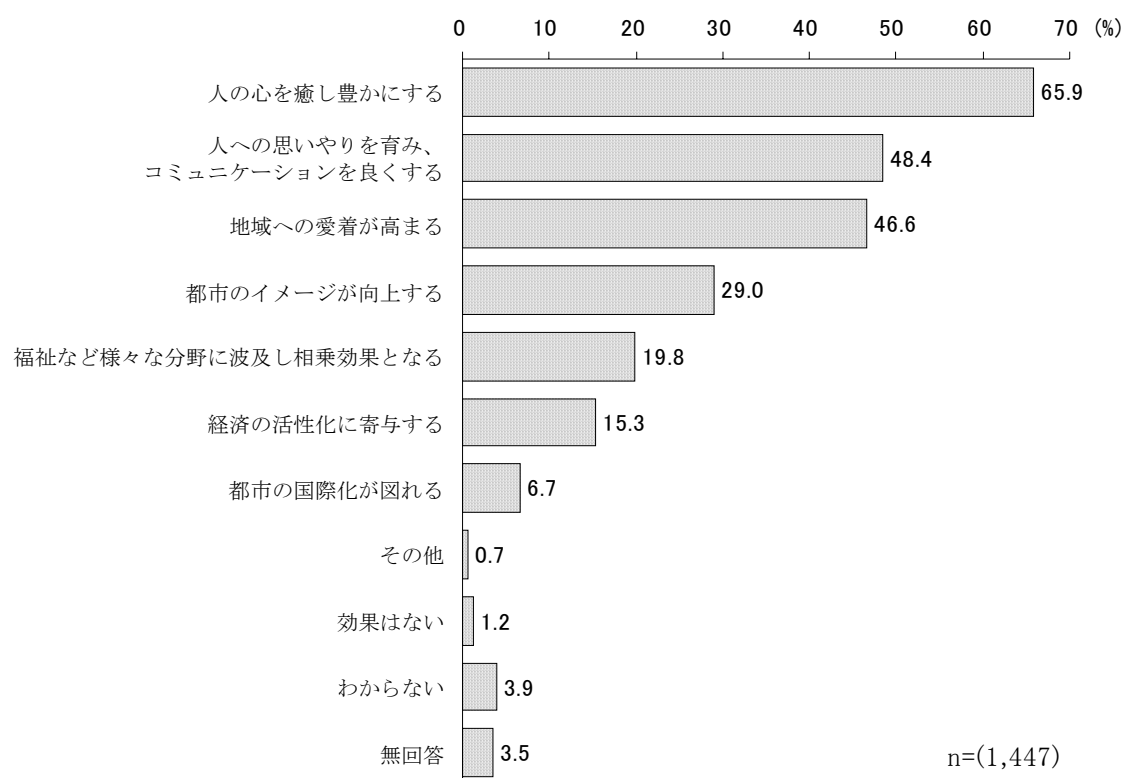
性／年齢別では、「小・中学校等における教育の充実」は、男女ともに30歳代が6割台前半～6割台半ばで多くなっている。「発表の機会や練習場所の充実」は、男女ともに40歳代～50歳代が5割台半ば～約6割で多く、70歳以上が3割台後半で少なくなっている。「文化芸術分野で活躍する著名人の協力」は、男性では、いずれの年齢層も市全体と同程度の数値となっている。女性では、60歳代が5割台前半で多くなっている。(図表 6-14)

6-7 文化を振興していくことにより、私たちの生活や社会にもたらされる効果

◎ 「人の心を癒し豊かにする」が65.9%

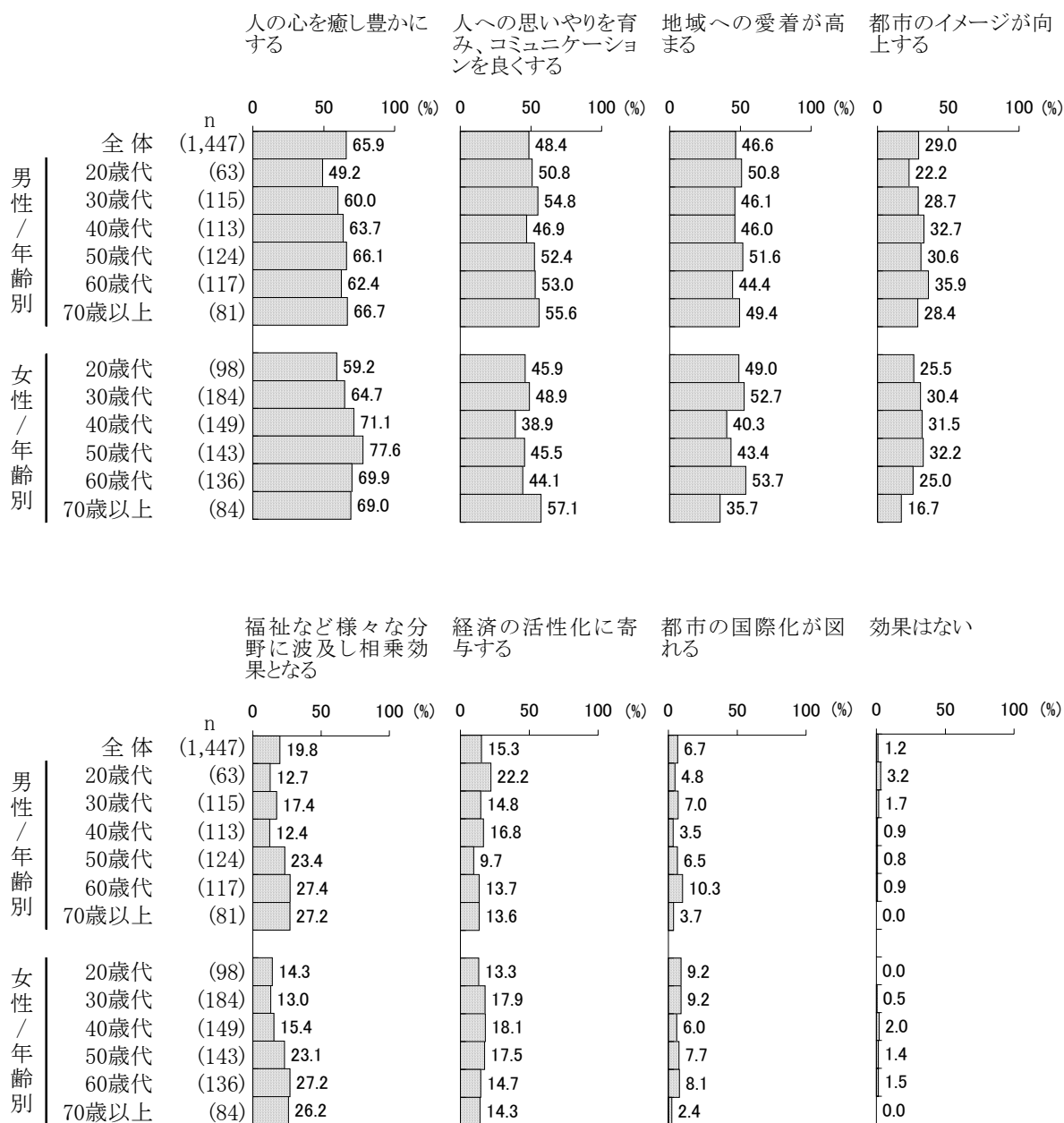
問 35 文化を振興していくことにより、私たちの生活や社会にどのような効果があると思いますか。(〇は3つまで)

図表 6-15 文化を振興していくことにより、私たちの生活や社会にもたらされる効果



文化を振興していくことにより、私たちの生活や社会にもたらされる効果は、「人の心を癒し豊かにする」が65.9%で最も多くなっている。以下「人への思いやりを育み、コミュニケーションを良くする」(48.4%)、「地域への愛着が高まる」(46.6%)、「都市のイメージが向上する」(29.0%)、「福祉など様々な分野に波及し相乗効果となる」(19.8%)と続いている。「効果はない」という否定的な意見は1.2%となっている。(図表 6-15)

図表 6-16 文化を振興していくことにより、私たちの生活や社会にもたらされる効果 (性/年齢別)



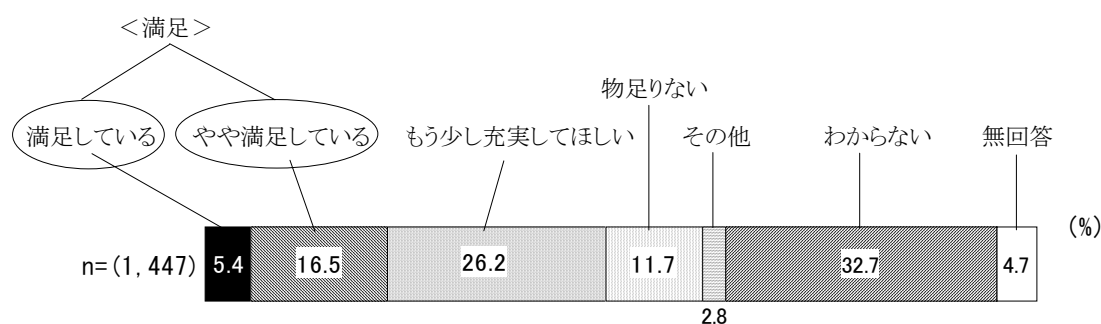
性/年齢別では、「人々の心を癒し豊かにする」は、全体的に男性よりも女性の方が多く、特に女性の50歳代が7割台後半となっている。「人への思いやりを育み、コミュニケーションを良くする」は、男性では、4割台半ばから5割台半ばとなっている。女性では、70歳以上が5割台後半となっているが、他の年齢層では3割台後半～4割台後半となっている。「地域への愛着が高まる」は、男性では、4割台半ば～5割台前半、女性では、30歳代と60歳代が5割台前半となっている。(図表 6-16)

6－8 文化に対する取組みの満足度

- ◎ 「満足している」(5.4%)と、「やや満足している」(16.5%)をあわせた
 <満足>は21.9%

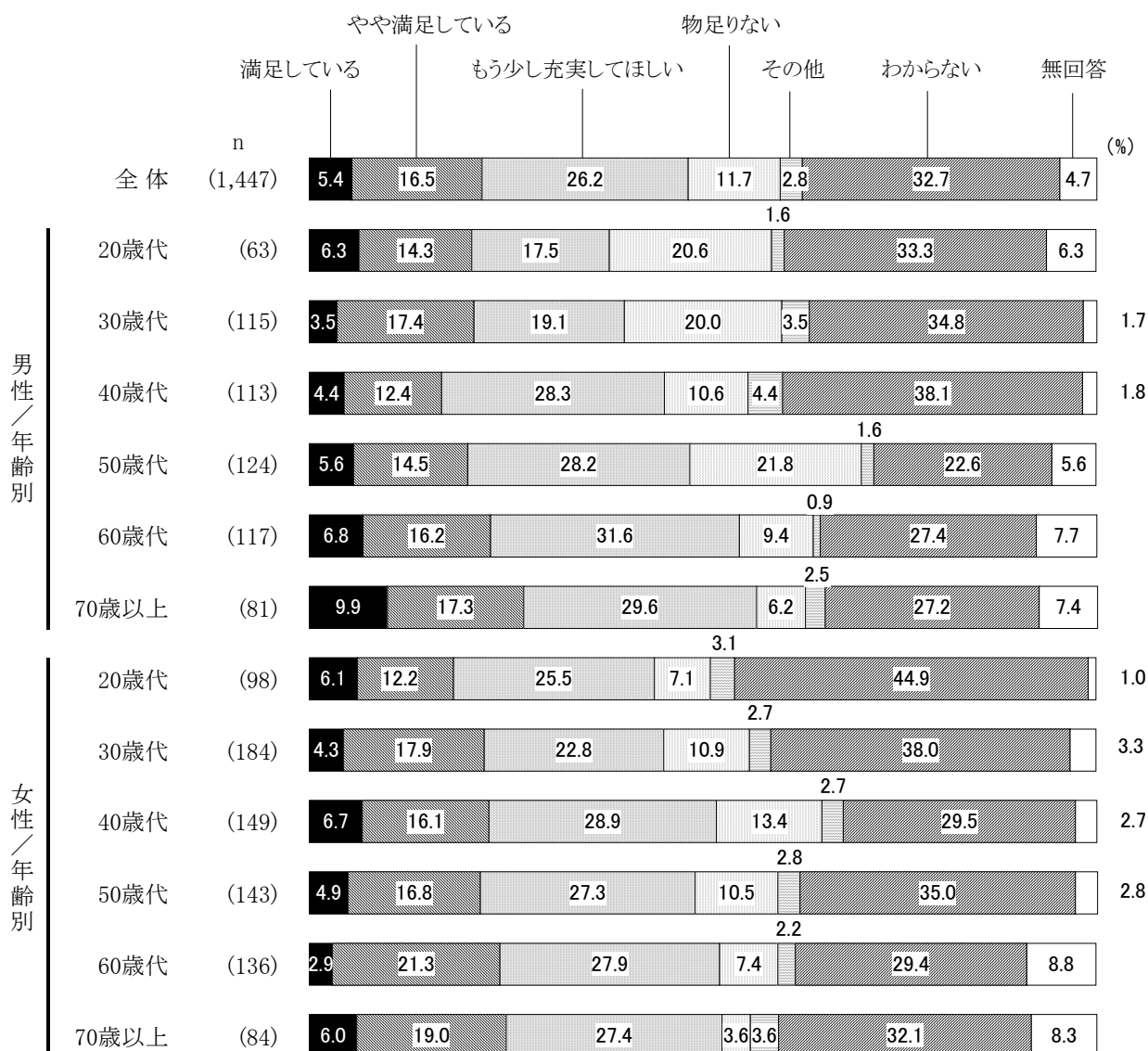
問 36 川崎市が行っている文化事業や文化施設の整備などの文化に対する取組みについて、どのように思いますか。(○は1つ)

図表 6－17 文化に対する取組みの満足度



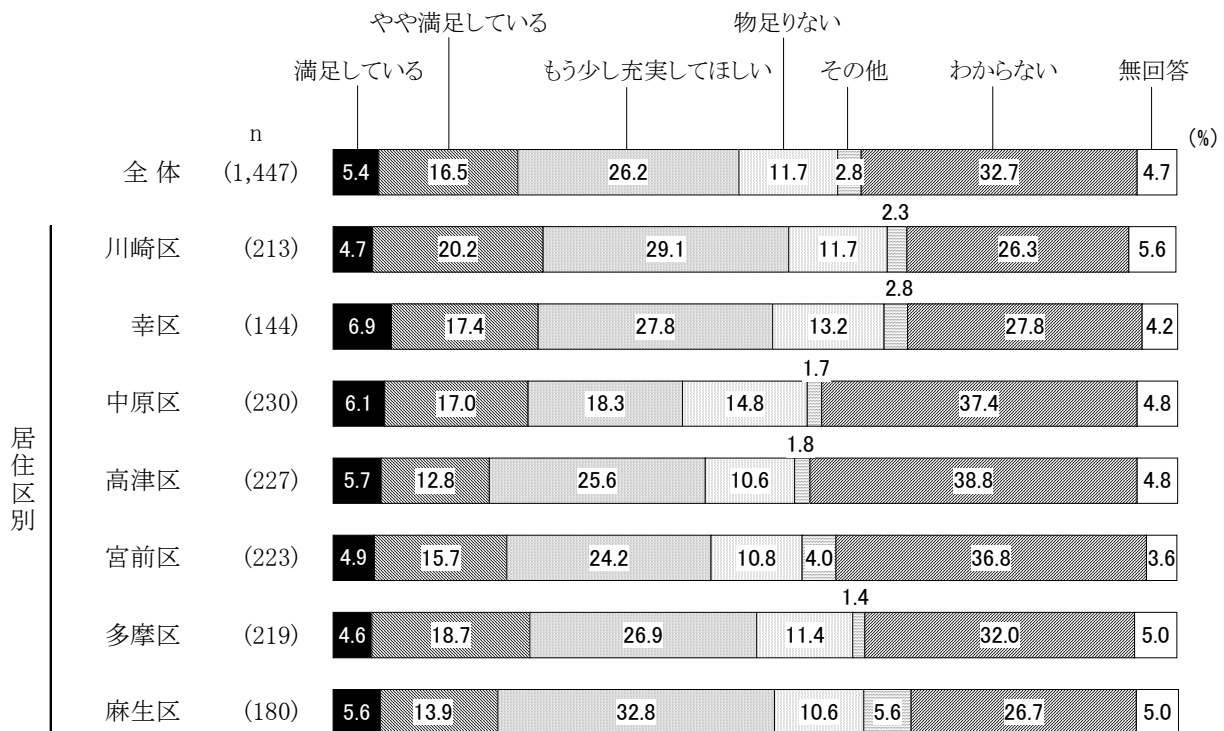
文化に対する取組みの満足度は、「満足している」(5.4%)、「やや満足している」(16.5%)をあわせた<満足>は21.9%となっている。一方、「物足りない」は11.7%であった。(図表 6－17)

図表 6-18 文化に対する取組みの満足度 (性/年齢別)



性/年齢別では、＜満足＞は、男女ともに70歳以上が2割台半ば～2割台後半で最も多くなっている。一方、「物足りない」は、全体的に女性より男性の方が多く、特に男性の20歳代～30歳代と50歳代が2割～2割台前半となっている。「もう少し充実してほしい」は、男性では、20歳代～30歳代が1割台後半、40歳代以上は3割前後となっている。女性では、いずれの年齢層でも2割台となっている。(図表 6-18)

図表 6－19 文化に対する取組みの満足度 (居住区別)



居住区別では、＜満足＞は、概ね2割台となっているが高津区、麻生区では1割台後半となっている。一方、「物足りない」は、いずれの居住区でも1割台となっている。(図表 6－19)